

獨医大病庶庶第32号
平成20年10月3日

厚生労働大臣 拝添要一殿

開設者名 学校法人獨協学
理事長 寺野

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	83人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	511人	4.8人	515.8人	看護業務補助	71人	診療エックス線技師	人
歯科医師	23人	0.4人	23.4人	理学療法士	8人	蘇臨床検査技師	77人
薬剤師	54人	人	54.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	4人	その他	9人
助産師	14人	人	14.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	2人
看護師	804人	30.1人	834.1人	臨床工学技士	13人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	9人	5.9人	14.9人	栄養士	6人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	4人	人	4.0人	歯科技工士	1人	事務職員	214人
管理栄養士	15人	人	15.0人	診療放射線技師	60人	その他の職員	69人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	1,004.3人	20.0人	1,024.4人
1日当たり平均外来患者数	2,213.8人	104.1人	2,317.9人
1日当たり平均調剤数		4,099.8剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を曆日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ曆日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	有・無	6人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	10人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	(有)・無	19人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	5人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	5人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31磷一磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	1人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素凍結骨移植	有・無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理 有・無	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	30人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	9人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	41人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	1人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	4人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	10人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	8人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	5人
カフェイン併用化学療法	有・無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	2人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	2人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

その他の高度医療

医療技術名	埋込型除細動器移植術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要			
自動的に致死性心室性頻拍を感じし高頻度刺激やショックパルスを発生し除細動を行う装置を体内に埋め込むもの。			
医療技術名	血管内超音波検査	取扱患者数	74人
当該医療技術の概要			
冠動脈の動脈硬化（石灰化、アテローム硬化、血栓の有無）などについて詳細な評価を行う。			
医療技術名	経皮的冠動脈血栓吸引術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
冠動脈内の血栓に対して吸引カテーテル（レスキュー、スロンバスター、パークサージ）にて血栓を吸引除去するもの。			
医療技術名	血漿交換療法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
劇症肝炎やギラン・バレー症候群における障害因子を除去するために体外循環を行い血漿を濾過置換する。			
医療技術名	血液吸着療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
膠原病において自己免疫性の障害因子を除去するために体外循環によるカラム吸着療法を行う。 その他、LDL吸着やエンドトキシン吸着などがある。			
医療技術名	脳電図トポグラフィ	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要			
20channel脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療			
医療技術名	耳鼻咽喉科ナビゲーションシステム	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要			
ナビゲーションシステムの支援により、術中リアルタイムに鼻副鼻腔の形態を正確に把握し、難治症例に対し、より安全に内視鏡下鼻副鼻腔手術を行うことが可能である。			
医療技術名	線維筋痛症またはchronic widespread painに対する電気痙攣療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
脳血流シングラムで視床血流低下を認めた線維筋痛症、またはchronic widespread pain（線維筋痛症不全型）症例に対して修正型電気痙攣療法を施行して、血流改善と疼痛緩和を図った。			

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ペーチェット病	124人	・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	35人
・多発性硬化症	61人	・ウェグナー肉芽腫症	8人
・重症筋無力症	95人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	144人
・全身性エリテマトーデス	308人	・多系統萎縮症	42人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	36人	・膿疱性乾癬	21人
・サルコイドーシス	143人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・筋萎縮性側索硬化症	44人	・原発性胆汁性肝硬変	36人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	308人	・重症急性胰炎	7人
・特発性血小板減少性紫斑病	172人	・特発性大腿骨頭壊死症	19人
・結節性動脈周囲炎	37人	・混合性結合組織病	38人
・潰瘍性大腸炎	348人	・原発性免疫不全症候群	2人
・大動脈炎症候群	18人	・特発性間質性肺炎	16人
・ビュルガー病	11人	・網膜色素変性症	39人
・天疱瘡	16人	・プリオント病	0人
・脊髄小脳変性症	72人	・原発性肺高血圧症	3人
・クローン病	147人	・神経線維腫症	21人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	253人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	3人
・アミロイドーシス	0人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	53人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に1回程度	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 63 例	剖検率 12.2 %

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
転座型白血病の分子機構と分子標的療法	三谷 紗子	内科学(血液)	9,300,000	補委 文部科学省
発生工学的手法を用いた転写因子Runx1の造血幹細胞発生における機能の解析	牧 和宏	内科学(血液)	900,000	補委 学術振興会
Fisher症候群モデル動物の樹立	船越 慶	内科学(神経)	1,300,000	補委 学術振興会
新しく確立した乳幼児急性脳症における中枢性ベンゾジアゼピン受容体の脳内分布	今高 城治	小児科学	1,100,000	補委 学術振興会
ゲノム薬理学的手法によるパニック障害治療における最適なパロキセチン血中濃度の探索	佐伯 吉規	精神神経医学	1,100,000	補委 学術振興会
ハチアレルギーにおける重症度マーカーの解析とIgEをターゲットとした治療の研究	平田 博国	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,600,000	補委 学術振興会
ゲノム薬理学的手法によるパニック障害治療におけるファーマコダイナミクス解析	上田 幹人	精神神経医学	1,100,000	補委 学術振興会
転写因子による造血制御機構と白血病発症機構の解析	三谷 紗子	内科学(血液)	3,300,000	補委 学術振興会
基底核が早期情報処理障害にもたらす影響の病態解明	平田 幸一	内科学(神経)	600,000	補委 学術振興会
線維性皮膚疾患におけるI型コラーゲン遺伝子転写調節機構の解析	旗持 淳	皮膚科学	700,000	補委 学術振興会
鉄イオン調節を用いた肝細胞癌に対する免疫療法に関する基礎的研究	窪田 敬一	第二外科学	1,100,000	補委 学術振興会
ハプロタイプ解析を用いた日本におけるサイログロブリン遺伝子異常の由来について	菱沼 昭	臨床検査医学	1,700,000	補委 学術振興会
白血病関連転写因子TELのES細胞を用いた機能解析と新規結合蛋白の同定	江口真理子	内科学(血液)	1,000,000	補委 学術振興会
Runx1の標的遺伝子の網羅的スクリーニングおよび発生工学的機能解析	山形 哲也	内科学(血液)	1,000,000	補委 学術振興会
難治性小児白血病におけるアポトーシス抑制蛋白SURVIVINの発現機構の解明	黒澤 秀光	小児科学	1,000,000	補委 学術振興会
気管支喘息に対するカンナビノイド作用薬の治療応用に関する基礎研究	吉原 重美	小児科学	700,000	補委 学術振興会
パニック障害に対するオーダメイド薬物治療計画立案のためのゲノム薬理学的研究	下田 和孝	精神神経医学	1,100,000	補委 学術振興会
脊椎症性脊髄症に対する減圧術が局所脊髄血流量に与える影響	荻野 雅宏	脳神経外科学	1,300,000	補委 学術振興会
高压酸素療法が脊髄損傷の治癒過程に与える効果に関する研究	玉井 和哉	整形外科学	1,200,000	補委 学術振興会
排尿筋収縮における尿路上皮よりの調節因子の同定とRho kinaseの役割	山西 友典	泌尿器科学	1,500,000	補委 学術振興会
嗅粘膜分泌異常における活性好酸球の関与～嗅覚障害の発症と改善のメカニズムの解明	春名 真一	耳鼻咽喉科学	800,000	補委 学術振興会
サイログロブリン遺伝子異常における甲状腺腫瘍発生機構の解明	家入蒼生夫	臨床検査医学	1,200,000	補委 学術振興会
12p13転座型白血病の原因遺伝子TELの発生工学的機能解析	江口 峰斎	内科学(血液)	1,500,000	補委 学術振興会
頸動脈小体と低酸素性化学受容体伝達の遺伝学的個体差について検討	山口 重樹	麻酔科学	3,100,000	補委 学術振興会
口腔癌の浸潤にRECK(MMP抑制膜結合蛋白質)が及ぼす影響についての検討	佐々木忠昭	口腔外科学	1,800,000	補委 学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
発生工学的手法を用いた白血病関連転写因子の機能解析	三谷 絹子	内科学(血液)	700,000	補委
小児悪性腫瘍患児に対するインターネットを活用した院内学級活動支援の心理学的検討	福島啓太郎	小児科学	500,000	補委
胎生期性ホルモンの空間認知能への影響を粘土の造形表現からみた検討	有阪 治	小児科学	500,000	補委
骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究	三谷 絹子	内科学(血液)	24,500,000	補委
ポジトロンCTのがん診断への応用と診断精度向上に関する研究	村上 康二	PETセンター	12,000,000	補委
特定機能病院における脳外科手術の原価費用の精密定量と、症例集中がもたらす費用節減効果の検討	金 彪	脳神経外科学	1,626,000	補委
高血圧管理におけるガイドラインの遵守と目標達成度に関する研究	南 順一	内科学(循環器)	1,400,000	補委
小児期特異的血液疾患の分子遺伝学的解析	江口真理子	内科学(血液)	1,000,000	補委
重症心身障害児(者)の病因・病態解明、治療・療育および施設のあり方に関する研究	山内 秀雄	小児科学	1,000,000	補委
睡眠障害医療における政策医療ネットワーク構築のための医療機関連携のガイドライン作成に関する研究	宮本 雅之	内科学(神経)	560,000	補委
新しい診療機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度の向上に関する研究	中村 哲也	消化器内視鏡センター	3,000,000	補委
生存率とQOLの向上を目指したがん切除後の形成再建手技の標準化	朝戸 裕貴	形成外科学	2,000,000	補委
新しい診療機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度の向上に関する研究	石川 勉	放射線医学	6,000,000	補委
新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と、診断・治療に関する研究	吉田 敦	臨床検査医学	1,500,000	補委
子宮体がんに対する標準的化学療法の確立に関する研究	深澤 一雄	産科婦人科学	1,800,000	補委
周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究	大島 教子	産婦人科学	主任一括計上	補委
造血器腫瘍における染色体転座関連遺伝子の基礎的・臨床的研究	三谷 絹子	内科学(血液)	1,700,000	補委
急性心筋梗塞症と脳卒中に対する超急性期診療体制の構築に関する研究	菊池 研	内科学(心血管・肺)	500,000	補委
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	野原 裕	整形外科学	1,000,000	補委
乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験	高田 悅雄	超音波センター	主任一括計上	厚生労働省
片頭痛に対する画期的治療法の開発に関する研究	平田 幸一	内科学(神経)	主任一括計上	厚生労働省
小児期メタボリック症候群の概念・病態診断基準の確立及び効果介入に関するコホート研究	有阪 治	小児科学	主任一括計上	厚生労働省
国内外における医療事故・医事紛争処理に関する法制的研究	寺野 彰	学長	300,000	補委
急性および慢性虚血モデルにおける特異蛋白の探索とProteomics解析	小林直彦	内科学(循環器)	7,000,000	文部科学省
低アディポネクチン血症の成因と治療	服部良之	内科学(内分泌代謝)	5,100,000	文部科学省

計50

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Pharmacol	K201, a multi-channel blocker, inhibits clofilium-induced torsades de pointes and attenuates an increase in repolarization	Hasumi H, Matsuda R, Shimamoto K, Hata Y, Kaneko N	内科学(心 血管・肺)
Cardiovasc Res	K201 modulates excitation-contraction coupling and spontaneous Ca ²⁺ release in normal adult rabbit ventricular cardiomyocytes	C. M. Loughrey, Otani N, T. Seidler, M. A. Craig, Matsuda R, Kaneko N, G. L. Smith	内科学(心 血管・肺)
J Cardiol	Right coronary artery to left ventricle fistula associated with three-vessel coronary artery disease:a case report	Araki H, Kageyama M, Inami S, Taguchi I, Abe S, Matsuda R, Mochizuki Y, Kaneko N	内科学(心 血管・肺)
J Am Geriatr Soc	A pilot study of banxia houpu tang, a traditional chinese medicine, for reducing pneumonia risk in older adults with dementia	Iwasaki K, Kato S, Monma Y, Niu K, Ohrui T, Okitsu R, Higuchi S, Ozaki S, Kaneko N, Seki T, Nakayama K, Furukawa K, Fujii M, Arai H	内科学(心 血管・肺)
Heart	Neopterin is associated with plaque inflammation and destabilization in human coronary atherosclerotic lesions	Adachi T, Naruko T, Itoh A, Komatsu R, Abe Y, Shirai N, Yamashita H, Ehara S, Nakagawa M, Kitabayashi C, Ikura Y, Ohsawa M, Yoshiyama M, Haze K, Ueda M	内科学(心 血管・肺)
Eur Heart J	Effects of K201(JTV-519) on excitation-contraction coupling and Ca ²⁺ release in rat ventricular cardiomyocytes	Otani N, Matsuda R, Toyoda S, Matsuda T, Kaneko N, C. M. Loughrey, G. L. Smith	内科学(心 血管・肺)
Euporean Heart Journal	K201(JTV-519) improves norepinephrine-induced diastolic dysfunction with preservation of the ejection fraction	Matsuda R, Otani N, Nakajima T, Abe S, Shinozaki M, Hasumi H, Kikuchi M, Kaneko N	内科学(心 血管・肺)
Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	心臓再同期療法が有効であった重症心不全の小児例	高橋信, 小山耕太郎, 簡義仁, 門崎衛, 石原和明, 外館玄一朗, 佐藤陽子, 千田勝一	内科学(心 血管・肺)
臨床呼吸生理	慢性心不全患者の睡眠時無呼吸と夜間CO ₂ 呼出量および換気量に与える酸素吸入の影響	有川拓男, 金子昇, 原澤寛, 中元隆明	内科学(心 血管・肺)
日本小児科学会雑誌	修正大血管転位症に合併した重症心不全に対する心臓再同期と三尖弁置換の併用療法	高橋信, 小山耕太郎, 簡義仁, 外館玄一朗, 佐藤陽子, 千田勝一	内科学(心 血管・肺)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Biochem Cell Biol	Peroxisome proliferator-activated receptor gamma (PPARgamma) regulates trefoil factor family 2 (TFF2) expression in gastric epithelial cells.	Shimada T, Fujii Y, Koike T, Tabei K, Namatame T, Yamagata M, Tajima A, Yoneda M, Terano A,	内科学(消化器)
Oncol Rep	Mutational analysis of the BRAF gene in colorectal mucinous carcinoma in association with histological configuration.	Yoshitake N, Fujii S, Mukawa K, Tominaga K, Fukui H, Ichikawa K, Tomita S, Ono Y, Imai Y, Terano A, Hiraishi H, Fujimori T	内科学(消化器)
Regul Pept	Regulation of TFF3 expression by homeodomain protein CDX2	Shimada T, Koike T, Yamagata M, Yoneda M, Hiraishi H	内科学(消化器)
J Gastroenterol	Comparison between endoscopic papillary balloon dilatation and endoscopic sphincterotomy for the treatment of common bile duct stones.	Watanabe H, Yoneda M, Tominaga K, Monma T, Kanke K, Shimada T, Terano A, Hiraishi H	内科学(消化器)
Leuk Lymphoma.	Fulminant B hepatitis in a surface antigen and hepatitis B DNA-negative patient with diffuse large B-cell lymphoma after CHOP chemotherapy plus rituximab.	Yamagata M, Murohisa T, Tsuchida K, Okamoto Y, Tsunoda S, Nakamura M, Kusano K, Majima Y, Kuniyoshi T, Iijima M, Sugaya H, Hiraishi H	内科学(消化器)
Invest Ophthalmol Vis Sci	Glypican 4, a membrane binding protein for bactericidal/permeability-increasing protein signaling pathways in retinal pigment epithelial cells	Geraldes P, Yamagata M, Rook SL, Sassa Y, Ma RC, Clermont A, Gao B, Aiello LP, Feener EP, King GL	内科学(消化器)
Gut.	Transient elastography in patients with non-alcoholic fatty liver disease (NAFLD)	Yoneda M, Fujita K, Inamori M, Tamano M, Hiraishi H, Nakajima A	内科学(消化器)
Pathobiology.	Nuclear expression of phosphorylated EGFR is associated with poor prognosis of patients with esophageal squamous cell carcinoma.	Hoshino M, Fukui H, Ono Y, Sekikawa A, Ichikawa K, Tomita S, Imai Y, Imura J, Hiraishi H, Fujimori T	内科学(消化器)
J Gastroenterol Hepatol	Up-regulation of TFF1 (pS2) expression by TNF-alpha in gastric epithelial cells.	Koike T, Shimada T, Fujii Y, Chen G, Tabei K, Namatame T, Yamagata M, Tajima A, Yoneda M, Terano A, Hiraishi H	内科学(消化器)
Inflamm Bowel Dis.	Human papillomavirus infection is involved in the development of colonic squamous cell dysplasia in ulcerative colitis-associated carcinogenesis.	Yoshitake N, Fukui H, Fujii S, Mukawa K, Tominaga K, Sekikawa A, Tomita S, Ichikawa K, Imura J, Nakajima K, Nezu R, Yamada Y, Yoshihara H, Hiraishi H, Fujimori T	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Dermatol.	Case of Werner's syndrome with pancreatic carcinoma.	Shimaoka Y, Halanochi A, Hamasaki Y, Yamazaki S, Hiraishi H, Hatori Y, Kasai K, Shimoda M, Kubota K, Imai Y	内科学(消化器)
Blood Purif	Selection of anticoagulants for leukocytapheresis therapy in cases of active ulcerative colitis.	Kanke K, Hoshino M, Tominaga K, Nakano M, Terano A, Hiraishi H	内科学(消化器)
Endoscopy Case Library.	Early diagnosis and successful treatment of small-intestinal carcinoid tumor: useful combination of capsule endoscopy and double-balloon endoscopy.	Yamagishi H, Fukui H, Shirakawa K, Oinuma T, Hiraishi H, Terano A, Fujimori T	内科学(消化器)
Obes Surg.	Evaluation of the excluded stomach by double-balloon endoscopy after laparoscopic Roux-en-Y gastric bypass.	Tagaya N, Kasama K, Inamine S, Zaha O, Kanke K, Fujii Y, Kanehira E, Hiraishi H, Kubota K	内科学(消化器)
Dig Liver Dis.	Noninvasive assessment of liver fibrosis by measurement of stiffness in patients with nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD).	Yoneda M, Mawatari H, Fujita K, Endo H, Iida H, Nozaki Y, Yonemitsu K, Higurashi T, Takahashi H, Kobayashi N, Kirikoshi H, Abe Y, Inamori M, Kubota K, Saito S, Tamano M, Hiraishi H, Maeyama S, Yamaguchi N, Togo S, Nakajima A	内科学(消化器)
Scand J Gastroenterol	Colonic expression of heme oxygenase-1 is associated with a better long-term survival in patients with colorectal cancer.	Becker JC, Fukui H, Imai Y, Sekikawa A, Kimura T, Yamagishi H, Yoshitake N, Pohle T, Domschke W, Fujimori T	内科学(消化器)
Laser Therapy	Modified photodynamic therapy for gastrointestinal cancers	Nakamura T, Oinuma T, Shirakawa K, Yamagishi H, Fukui H, Fujimori T, Hiraishi H	内科学(消化器)
Int J Hematol	TEL/ETV6 binds to corepressor KAP1 via the HLH domain	Nakamura Y, Maki K., Sasaki K., Kitabayashi I, Mitani, K.	内科学(血液)
Leukemia	Chronic idiopathic myelofibrosis expressing a novel type of TEL-PDGFRB chimaera responded to imatinib mesylate therapy	Tokita, K., Maki, K., Tadokoro, J., Nakamura Y., Arai, Y., Sasaki, K., Eguchi-Ishimae, M., Eguchi, M., Mitani, K.	内科学(血液)
Leukemia	Unbalanced translocation der(17) (q10;p10) defines a unique clinicopathological subgroup of myeloid neoplasia	Sanada M, Uike N, Ohyashiki K, Ozawa K, Lili W, Hangaishi A, Kanda Y, Chiba S, Kurokawa M, Omine M, Mitani K, Ogawa S	内科学(血液)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Hematol	Low expression of ETV6/TEL found in patients with myelodysplastic syndrome	Yamagata T, Nakamura Y, Mitani K.	内科学(血液)
Cancer Sci	RUNX1/EVI1 that blocks myeloid differentiation inhibits CCAAT-enhancer binding protein - function	Tokita K., Maki K., Mitani K.	内科学(血液)
Int J Hematol	A prospective study of cyclosporine A treatment of patients with low-risk myelodysplastic syndrome: presence of CD55-CD59- blood cells predicts platelet response	Ishikawa T, Toyama K., Nakao S, Yoshida Y, Teramura M, Motoji T, Takatoku M, Kurokawa M, Mitani K, Uchiyama T, Omine M	内科学(血液)
Cancer Sci	Histone deacetylase inhibitors trichostatin A and valproic acid circumvent apoptosis in human leukemic cells expressing the RUNX1 chimera	Sasaki K., Yamagata T, Mitani K.	内科学(血液)
Int Heart J 48: 177-186, 2007.	Long-term efficacy of combination therapy with losartan and low-dose hydrochlorothiazide in patients with uncontrolled hypertension.	Minami J, Abe C, Akashiba A, Takahashi T, Kameda T, Ishimitsu T, Matsuoka H	内科学(循環器)
G Diabetes 56: 804-808, 2007.	lobular adiponectin activates nuclear factor- κ B and activating protein-1 and enhances angiotensin II-induced proliferation in cardiac fibroblasts.	Hattori Y, Hattori S, Akimoto K, Nishikimi T, Suzuki K, Matsuoka H, Kasai K:	内科学(循環器)
Proc Natl Acad Sci USA 104: 3420-3425, 2007.	Adrenomedullin gene expression differences in mice do not affect blood pressure but modulate hypertension-induced pathology in males.	Caron K, Hagaman J, Nishikimi T, Kim HS, Smithies O	内科学(循環器)
Endocrinology 148: 1688-1696, 2007.	Angiotensin II receptor type 1-mediated vascular oxidative stress and proinflammatory gene expression in aldosterone-induced hypertension: the possible role of local renin-angiotensin system.	Hirono Y, Yoshimoto T, Suzuki N, Sugiyama T, Sakurada M, Takai S, Kobayashi N, Shichiri M, Hirata Y	内科学(循環器)
J Hypertens 25: 1053-1063, 2007.	Inhibition of Rho-kinase attenuates nephrosclerosis and improves survival in salt-loaded spontaneously hypertensive stroke-prone rats.	Nishikimi T, Koshikawa S, Ishikawa Y, Akimoto K, Inaba C, Ishimura K, Ono H, Matsuoka H	内科学(循環器)
Nephrol Dial Transplant 22: 1314-1322, 2007.	Dual blockade of aldosterone and angiotensin II additively suppresses TGF-beta and NADPH oxidase in the hypertensive kidney.	Onozato ML, Tojo A, Kobayashi N, Goto A, Matsuoka H, Fujita T	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nephrology 12: 294-298, 2007.	IBenzazepril slows progression of renal dysfunction in patients with non-diabetic renal disease.	Ishimitsu T, Akashiba A, Kameda T, Takahashi T, Ohta S, Yoshii M, Minami J, Ono H, Numabe A, Matsuoka H	内科学（循環器）
Regul Pept 141:154-158, 2007.	N-terminal pro-atrial natriuretic peptide and exercise prescription in patients with myocardial infarction.	Ikeda N, Yasu T, Nishikimi T, Nakamura T, Kubo N, Kawakami M, Momomura S, Saito M	内科学（循環器）
Regul Pept 141: 129-134, 2007.	Possible role of adrenomedullin in the regulation of Fontan circulation: mature form of plasma adrenomedullin is extracted in the lung in patients with Fontan procedure.	Watanabe K, Nishikimi T, Takamuro M, Yasuda K, Ishikawa Y, Tanabe S, Yamada O, Yagihara T, Suga S, Kangawa K, Matsuoka H, Echigo S	内科学（循環器）
Hypertens Res 30: 621-626, 2007.	Efonidipine reduces proteinuria and plasma aldosterone in patients with chronic glomerulonephritis.	Ishimitsu T, Kameda T, Akashiba A, Takahashi T, Ohta S, Yoshii M, Minami J, Ono H, Numabe A, Matsuoka H	内科学（循環器）
J Hypertens 25: 1633-1642, 2007.	Cardioprotective effect of angiotensin II type 1 receptor antagonist associated with bradykinin-endothelial nitric oxide synthase and oxidative stress in Dahl salt-sensitive hypertensive rats.	Yoshida K, Kobayashi N, Ohno T, Fukushima H, Matsuoka H	内科学（循環器）
Hypertens Res 30: 729-739, 2007.	Antihypertensive efficacy and safety of fixed-dose combination therapy with losartan plus hydrochlorothiazide in Japanese patients with essential hypertension.	Saruta T, Ogihara T, Matsuoka H, Suzuki H, Toki M, Hirayama Y, Nonaka K, Takahashi K	内科学（循環器）
Int Heart J 48: 637-647, 2007.	Combination therapy with telmisartan and spironolactone alleviates L-NAME exacerbated nephrosclerosis with an increase in PPAR-gamma and decrease in TGF-beta(1).	Takahashi T, Ono H, Ono Y, Ishimitsu T, Matsuoka H	内科学（循環器）
Hypertens Res 30: 1119-1128, 2007.	Losartan improves the impaired function of endothelial progenitor cells in hypertension via an antioxidant effect.	Yao EH, Fukuda N, Matsumoto T, Kobayashi N, Katakawa M, Yamamoto C, Tsunemi A, Suzuki R, Ueno T, Matsumoto K	内科学（循環器）
Hypertension 50: e73, 2007.	Can large-scale trials or meta-analyses demonstrate blood pressure-independent effect of angiotensin receptor blockers?	Minami J, Ishimitsu T, Matsuoka H	内科学（循環器）
Hypertension 50: e163, 2007.	Do commercially available assay kits for B-type natriuretic peptide measure Pro-BNP1-108, as well as BNP1-32?	Nishikimi T, Minamino N, Horii K, Matsuoka H	内科学（循環器）

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res 30: 945-950, 2007.	Lower birth weight is associated with higher resting heart rate during boyhood.	Abe C, Minami J, Ohrui M, Ishimitsu T, Matsuoka H	内科学（循環器）
日本心臓病学会雑誌 49: 135-141, 2007.	急性心筋梗塞再灌流療法後のニコランジルによる心室性不整脈抑制効果	原均之, 堀中繁夫, 矢部彰久, 八木博, 坪光雄介, 吉田康太郎, 家村知海, 松岡博昭	内科学（循環器）
Therapeutic Research 28: 1578-1580, 2007.	テルミサルタンのPPAR γ を介した血管内皮機能と心保護作用	小林直彦	内科学（循環器）
医学と薬学 58: 115-119, 2007.	高血圧治療におけるロサルタンとヒドロクロロチアジドの配合剤（プレミネット TM 錠）の臨床的有用性についての検討	南順一, 竹下正昭, 大野絵里, 古堅聰, 阿部麗子, 阿部力, 小堀哲雄, 石光俊彦, 松岡博昭	内科学（循環器）
Mov Disord 22: 1245-1251, 2007.	Characteristics of sleep disturbances in Japanese patients with Parkinson's disease. A study using Parkinson's disease sleep scale.	Suzuki K, Okuma Y, Hattori N, Kamei S, Yoshiii F, Utsumi H, Iwasaki Y, Iijima M, Miyamoto T, Miyamoto M, Hirata K	内科学（神経）
J Clin Neuromuscular Dis 8: 207-211, 2007.	Treatment Response to Steroid and Intravenous Immunoglobulin in a Patient with Chronic Sensory Demyelinating Neuropathy.	Odaka M, Ito M, Yuki N, Hirata K	内科学（神経）
Muscle Nerve 35: 203-207, 2007.	Neurophysiological evaluation of trigeminal and facial nerves in patients with chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy.	Kokubun N, Hirata K	内科学（神経）
Auton Neurosci 131: 131-136, 2007.	Circadian rhythm abnormalities in the acute phase of cerebral infarction correlate with poor prognosis in the chronic phase.	Takekawa H, Miyamoto M, Miyamoto T, Hirata K	内科学（神経）
Arch Neurol 64: 1519-1523, 2007.	Continuous spectrum of pharyngeal-cervical-brachial: Continuous spectrum of pharyngeal-cervical-brachial variant of Guillain-Barre syndrome.	Nagashima T, Koga M, Hirata K, Yuki N	内科学（神経）
Neurosci Lett 411: 26-31, 2007.	Expression of Ibal protein in microglial cells of zitter mutant rat.	Kadowaki T, Nakadate K, Sakakibara S, Hirata K, Ueda S	内科学（神経）

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med 46: 467-472, 2007.	Multi-center randomized control trial of etizolam plus NSAID combination for tension-type headache.	Hirata K, Tatsumoto M, Takeshima T, Igarashi H, Shibata K, Sakai F	内科学(神経)
Glia 55: 746-757, 2007.	Gangliosides contribute to stability of paranodal junctions and ion channel clusters in myelinated nerve fibers.	Susuki K, Baba H, Tohyama K, Kanai K, Kuwabara S, Hirata K, Furukawa K, Rasband MN, Yuki	内科学(神経)
J Neurosci 27: 3956-3967, 2007.	Anti-GM1 antibodies cause complete disruption of sodium channel clusters in peripheral motor nerve fibers.	Susuki K, Rasband MN, Tohyama K, Koibuchi K, Okamoto S, Funakoshi K, Hirata K, Baba H, Yuki N	内科学(神経)
Jap J Headache 34: 185-188, 2007.	Social and educational status in primary headaches. A study in an academic outpatient neurology clinic in Japan.	Iwanami H, Tatsumoto M, Hoshiyama E, Hirata K	内科学(神経)
Arch Neurol 64: 1038-1041, 2007.	Limb-Girdle muscular dystrophy due to emerin gene mutations.	Ura S, Hayashi Y, Goto K, Astejada MN, Murakami T, Nagao M, Ohta S, Daimon Y, Takekawa H, Hirata K, Nonaka I, Noguchi S, Nishino I	内科学(神経)
J Neuroimmunol 182: 116-123, 2007.	Wokke JH, van de Winkel JG, van den Berg LH, van der Pol WL: Leukocyte and complement activation by GM1-specific antibodies is associated with acute motor axonal neuropathy in rabbits.	van Sorge NM, Yuki N, Jasen MD, Koga M, Nishimoto Y, Susuki K	内科学(神経)
J Neuroimmunol 182: 177-184, 2007.	Ganglioside-specific IgG and IgA recruit leukocyte effector functions in Guillain-Barre syndrome.	van Sorge NM, Yuki N, Koga M, Susuki K, Jasen MD, van Kooten C, Wokke JH, van de Winkel JG, van der Pol WL,	内科学(神経)
Cochrane Database Syst Rev 24: CD004761, 2007.	Treatment for Fisher syndrome, Bickerstaff's brainstem encephalitis and related disorders.	Overell JR, Hsieh ST, Odaka M, Yuki N, Willison HJ	内科学(神経)
Arch Dis Child 92: 48-52, 2007.	Prospective study on anti-ganglioside antibodies in childhood Guillain-Barre syndrome.	Schessl J, Koga M, Funakoshi K, Kirschner J, Muellges W, Weishaupt A, Gold R, Korinthenberg R	内科学(神経)
睡眠医療 3: 139-145, 2007.	栃木県歯科医師の『いびき、睡眠時無呼吸症候群、歯ぎしり』の診療に関する実態調査。	宮本智之, 宮本雅之, 西林百佳, 平田幸一, 池松武直	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
自律神経44: 308-313, 2007.	重症脳梗塞における生体リズムと慢性期予後の関係.	新島悠子, 竹川英宏, 小川知宏, 平田幸一	内科学(神経)
日本頭痛学会誌 34: 192-193, 2007.	慢性片頭痛と薬物乱用頭痛の付録診断基準の追加について.	竹島多賀夫, 間中信也, 五十嵐久佳, 平田幸一, 坂井文彦:	内科学(神経)
Respiration 74: 454-459, 2007.	Interleukin-10 regulates transforming growth factor- β signaling in cultured human bronchial epithelial cells.	Fueki N, Sagara H, Akimonoto K, Ota M, Okada T, Sugiyama K, Fueki M, Makino S, Fukuda T	内科学(呼吸器・アレルギー)
Clin Exp Allergy 37: 1165-74, 2007.	Transforming growth factor-b2 polymorphisms are associated with childhood atopic asthma.	Hatushika K, Hirota K, Harada M, Sakashita M, Kanzaki M, Takano S, Doi S, Fujita K, Enomoto R, Matsumoto K, Saito H, Ogawa H, Tamari M, Nakao A, T, Ebisawa M, Yoshihara S, Sagara H, Fukuda T, Masuyama K, Katoh K	内科学(呼吸器・アレルギー)
Hypertens Res 30: 23-30, 2007.	Comparison of the effects of Pioglitazone and Metformin on insulin resistance and hormonal markers in patients with impaired glucose tolerance and early diabetes.	Eguchi K, Tomizawa H, Ishikawa J, Hoshide S, Numao T, Fukuda T, Shimada K, Kario, K	内科学(呼吸器・アレルギー)
J Clin Rheumatol (in press).	Systemic lupus erythematosus associated with overproduction of interleukin-5 and eosinophilia.	Anzai M, Maezawa R, Ohara T, Kodama K, Fukuda T, Kurasawa K	内科学(呼吸器・アレルギー)
Therapeutic Research 28: 2015-2017, 2007.	膠原病に伴う肺高血圧症の診断と治療 膠原病合併肺高血圧症に対する免疫抑制療法 その効果と限界.	倉沢和宏	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー・免疫 14: 112-120, 2007.	遷延性/慢性乾性咳嗽患者のカプサイシン誘発咳感受性に対するブデソニドドライパウダー吸入製剤の効果.	相良博典, 木代泉, 眞塩一樹, 杉山公美弥, 山田一成, 福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
呼吸器 26: S17-S20, 2007.	IL-10はSmad7発現を誘導し、TGF- β シグナルを制御する(気道上皮細胞におけるTGF- β シグナル).	笛木直人, 相良博典, 太田真弓, 秋元一三, 岡田壮令, 杉山公美弥, 笛木真, 牧野莊平, 福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
呼吸 26: 575-580, 2007	渡邊直人, 福田健: 健常者の坐位と仰臥位でのカプサイシン咳感受性試験による咳閾値の比較検討.	渡邊直人, 福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ther Drug Monit . 29:40-44, 2007	High plasma concentrations of paroxetine impede clinical response in patients with panic disorder	Watanabe T, Ueda M, Saeki Y, Hirokane G, Morita S, Okawa M, Akiyama K, Shimoda K:	精神神経医学
J Hum Genet. 2007;52:794-803. Epub 2007.	Association analysis of HSP90B1 with bipolar disorder.	Kakiuchi C, Ishiwata M, Nanko S, Kunugi H, Minabe Y, Nakamura K, Mori N, Fujii K, Umekage T, Tochigi M, Kohda K, Sasaki T, Yamada K, Yoshikawa T, Kato T	精神神経医学
Neurosci Lett. 2007 May 7;417(3):316-21. Epub 2007.	Association analysis of ATF4 and ATF5, genes for interacting-proteins of DISC1, in bipolar disorder.	Kakiuchi C, Ishiwata M, Nanko S, Kunugi H, Minabe Y, Nakamura K, Mori N, Fujii K, Yamada K, Yoshikawa T, Kato T	精神神経医学
Mutat Res. 2007 Apr 1;617:119-24. Epub 2007.	Sequence and functional analyses of mtDNA in a maternally inherited family with bipolar disorder and depression.	Munakata K, Fujii K, Nanko S, Kunugi H, Kato T	精神神経医学
栃木精神医学 27: 37-41, 2007.	Zonisamideにより精神病症状を呈したてんかんの1例。	室井 秀太, 石黒慎, 下田和孝 秋山 一文	精神神経医学
Allergol Int	Successful treatment with regimen of intravenous gamma globulin and cyclophosphamide for dermatomyositis accompanied by interstitial pneumonia, opportunistic infection and steroid psychosis	Murota H, Muroi E, Yamaoka T, Hamasaki Y, Katayama I	皮膚科学
Br J Dermatol	A novel point mutation in the gene encoding capillary morphogenesis protein 2 in a Japanese patient with juvenile hyaline fibromatosis	Hatamochi A, Sasaki T, Kawaguchi T, Suzuki H, Yamazaki S	皮膚科学
J Dermatol	Association between eosinophilic fasciitis and systemic lupus erythematosus	Kitamura Y, Hatamochi A, Hamasaki Y, Ikeda H, Yamazaki S	皮膚科学
Healthy volunteer study. JMRI 25: 517-526, 2007	Anatomical and metabolic assessment of prostate using a 3-Tesla MR scanner with a custom-made external transceive coil	Kaji Y, Kuroda K, Maeda T, Kitamura Y, Fujiwara T, Matsuoka Y,	放射線医学
Magn Reson Med Sci 6: 61-66, 2007	Hypointensity on postcontrast MR imaging from compression of the sacral promontory in enlarged uterus with huge leiomyoma and adenomyosis	Uotani K, Monzawa S, Adachi S, Takemori M, Kaji Y, Sugimura K	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Obstet Gynecol 196: 184. e1-6, 2007	Magnetic resonance-guided focused ultrasound surgery for uterine fibroids: relationship between the therapeutic effects and signal intensity of preexisting T2-weighted magnetic resonance images.	Funaki K, Fukunishi H, Funaki T, Sawada K, Kaji Y, Maruo T	放射線医学
Am J Obstet Gynecol 17: 724-728, 2007.	Unsuspected uterine leiomyosarcoma: magnetic resonance imaging findings before and after focused ultrasound surgery	Fukunishi H, Funaki K, Ikuma K, Kaji Y, Sugimura K, Kitazawa R, Kitazawa S	放射線医学
Correlation with Pathologic Findings. J Comput Assist Tomogr 31: 463-468, 2007	MR Imaging of Typical Polypoid Adenomyoma of the Uterus in 8 patients	Kitajima K, Imanaka K, Kuwata Y, Hashimoto K, Sugimura K	放射線医学
Assessment by PET/CT. Ann Nucl Med 21: 05-410, 2007	Normal uptake of 18F-FDG in the testis	Kitajima K, Nakamoto Y, Senda M, Onishi Y, Okizuka H, Sugimura K	放射線医学
AJR Am J Roentgenol 189: W100-104, 2007	MRI Findings of Uterine Lipoleiomyoma. Correlation with Pathologic Findings.	Kitajima K, Kaji Y, Imanaka K, Sugihara R, Sugimura K	放射線医学
Radiat Med. 25: 346-354, 2007	Magnetic Resonance Imaging Findings of Endometrioid Adenocarcinoma of the Ovary	Kitajima K, Kaji Y, Kuwata Y, Imanaka K, Sugihara R, Sugimura K	放射線医学
Chest 131: 1870-1876, 2007	Chronic Interstitial Pneumonia in Silicosis and Mix-Dust Pneumoconiosis: Its Prevalence and Comparison of CT Findings With Idiopathic Pulmonary Fibrosis	Arakawa H, Joukou T, Honma K, Shida H, Saito Y, Suganuma N	放射線医学
AJR Am J Roentgenol 189: 156-161, 2007.	CT Pulmonary Angiography and CT Venography: Factors Associated With Vesel Enhancement.	Arakawa H, Kono T, Hiki T, Kaji Y	放射線医学
Endoscopy 39: 701-705, 2007	Fujii T, Fujimori T, Ishikawa T, Saito D: Determining the treatment strategy for colorectal neoplastic lesions: endoscopic assessment or the non-lifting sign for diagnosing invasion depth?	Kobayashi N, Saito Y, Sano Y, Uragami N, Michita T, Nasu J, Matsuda T, Fu KI	放射線医学
J Gastroenterol Hepatol 22: 1409-1414, 2007	Introgenic perforation associated with therapeutic colonoscopy: a multicenter study in Japan	Yamaguchi Y Fujita M, Hattori S, Ishikawa T, Saito D, Fujii T, Kaneko E, Yoshida S 他	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Pediatr	Cardiovascular risk markers in adolescent girls with anorexia nervosa	Arisaka O, Yamazaki Y, Ichikawa G, Shimura N	小児科学
Austral-Asian Journal of Cancer	Peripheral Blood CD25+CD4+T Cells in Childhood Patients Treated with Allogeneic Stem Cell Transplantation	Sugita K, Tsuboi T, Sato Y, Kurosawa H	小児科学
Eur J Pediatr	Duration of isolation of children with influenza A treated with oseltamivir	Kano K, Sunagawa S, Shimura N, Arisaka O	小児科学
Genet Counsel	Survival of trisomy 18 cases in Japan	Imataka G, Nitta A, Suzumura H, Watanabe H, Yamanouchi H, Arisaka O	小児科学
Leukemia	Hypercalcemia in childhood acute lymphoblastic leukemia: frequent implication of parathyroid hormone-related peptide and E2A-HLF from translocation 17;19	Inukai T, Hirose K, Inaba T, Kurosawa H, Hama A, Inada H, Chin M, Nagatoshi Y, Ohisuka , Oda M, Goto H, Endo M, Morimoto A, Imaizumi M, Kawamura N, Miyajima Y, Otake M, Miyaji R, Saito M, Tawa A, Yanai F, Goto K, Nakazawa S, Sugita K .	小児科学
Clin Exp Allergy.	Transforming growth factor-beta(2) polymorphisms are associated with childhood atopic asthma.	Hatsushika K, Hirota T, Harada M, Sakashita M, Kanzaki M, Takano S, Doi S, Fujita K, Enomoto T, Ebisa M, Yoshihara S, Sagara H, Fukuda T, Masuyama K, Kaihoh R, Matsumoto K, Saito H, Ogawa H, Tamari M, Nakao A	小児科学
Pediatr Neurol	Efficacy of intravenous midazolam for status epilepticus in childhood	Hayashi K, Osawa M, Aihara M, Izumi T, Ohisuka Y, Hagiwara K, Kato I, Kaneko K, Sugai K, Takahashi T, Hamano S, Matsukura M, Miura H, Minagawa K, Yamano T, Yamamoto H, Yamanouchi H, Yoshikawa H	小児科学
Human Mutation	Genotype-phenotype correlations of KCNJ2 mutations in Japanese patients with Andersen-Tawil syndrome	Haruna Y, Kobori A, Makiyama T, Yoshida H, Akao M, Doi T, Tsuji K, Ono S, Nishio Y, Shimizu W, Inoue T, Murakami T, Tsuboi N, Yamanouchi H, Ushinohama H, Nakamura Y, Yoshinaga M, Horigome H, Aizawa Y, Kita T, Horie M	小児科学
Nat Cell Biol	Bif-1 interacts with Beclin 1 through UV-RAG and regulates autophagy and tumorigenesis	Takahashi Y, Coppola D, Matsushita N, Cuvalic H D, Sun M, Sato Y, Liang C, Jung J.U, Cheng J.Q, Mule J.J, Pledger W.J, Wang HG.	小児科学
J Hum Genet	Molecular and clinical analyses of Japanese patients with carbamoylphosphate synthetase 1 (CPS1) deficiency	Kurokawa K, Yorifuji T, Kawai M, Nonoi T, Nagasaka H, Takayanagi M, Kobayashi K, Yoshino M, Kosho T, Adachi M, Otsuka H, Yamamoto S, Murata T, Sueuaga A, Ishii T, Terada K, Shiura N, Kiwaki K, Shinzaku H, Yanakawa M, Nakabayashi H, Wakutani Y, Nakahata T	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Genet Counsel	Survival of trisomy 18 cases in Japan	Imastaka G, Nitta A, Suzumura H, Watanabe H, Yamanouchi H, Arisaka O	小児科学
栃木県医学会会誌	河内都市学校腎臓検診について（平成17年度）	加納健一, 福田哲夫, 安藤保, 山崎トヨ, 影山さち子, 上山泰淳, 石井徹, 中島尚子, 加藤一昭, 竹澤昭, 小堀進, 川俣和子, 近藤之, 福島一俊, 小宮伸幸	小児科学
栃木県医学会会誌	栃木県立学校における学校腎臓検診について（平成17年度）	加納健一, 村山直樹, 武田茂幸, 上山泰淳, 安藤康宏, 手塚真史	小児科学
栃木県医学会会誌	平成17年度の保健衛生事業団が関与した小中学校と私立学校の腎臓検診について	加納健一, 上山泰淳, 小林靖明, 加藤一昭, 手塚真史, 清水正幸	小児科学
小児科臨床	小児排尿機能未熟型夜尿症に対する徐放性酒石酸トルテロジンの短期効果	加納健一, 有阪治	小児科学
小児科臨床	2006/2007年の野木病院小児科におけるインフルエンザの臨床的検討	加納健一, 砂川佐知子, 有阪治	小児科学
栃木県医学会会誌	河内都市学校腎臓検診について（平成18年度）	加納健一, 福田哲夫, 安藤保, 山崎トヨ, 上山泰淳, 金井孝裕, 加藤一昭, 竹澤昭, 海賀康, 近藤之, 福島一俊, 小宮伸幸	小児科学
栃木県医学会会誌	栃木県立学校における学校腎臓検診について（平成18年度）	加納健一, 村山直樹, 武田茂幸, 上山泰淳, 安藤康宏, 岡田和久, 手塚真史	小児科学
栃木県医学会会誌	平成18年度の保健衛生事業団が関与した小中学校と私立学校の腎臓検診について	加納健一, 上山泰淳, 小林靖明, 加藤一昭, 安藤文夫, 手塚桂子	小児科学
小児科臨床	高校生の学校検尿について	加納健一, 有阪治	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児科臨床	河内都市の小中学生の過去11年間の学校検尿の推移について	加納健一, 福田哲夫, 村山直樹	小児科学
医学と薬学	乳幼児の気管支喘息管理実態に関するアンケート調査(第二報)ー保護者を対象としてー	吉原重美	小児科学
診療と新薬	ツロブテロールテープ剤の製剤特性の比較に関する検討	吉原重美, 山田裕美, 福田啓伸, 阿部利夫, 有阪治	小児科学
日本周産期・新生児医学会雑誌	日齢14未満における早産児のfree thyroxine(free T4), thyroid stimulatinf hormone (TSH)値について	鈴村宏, 渡部功之, 新田晃久, 有阪治	小児科学
日本小児科学会雑誌	新生児・乳幼児に対する院内分割による輸血製剤の供給	福島啓太郎, 岡田まゆみ, 安部マサ子, 石井栄三郎	小児科学
日本未熟児新生児学会雑誌	無呼吸回復刺激装置の試作および有用性の検討: 手指を用いない回復刺激を目的として	新田晃久, 渡部功之, 鈴村宏, 有阪治	小児科学
栃木県医学会会誌	軽度脳低体温療法プロトコールの問題点と展望	今高城治, 伊藤正穂, 山内秀雄, 有阪治, 片塩仁, 菊池仁, 岩田健司, 神津成紀, 根本真人, 和氣晃司, 小野一之, 崎尾秀彰	小児科学
小児アレルギー学会誌	「小児気管支喘息・管理ガイドライン2005」と「患者さんとその家族のためのぜんそくハンドブック2004」に関するアンケート調査ー学会員と一般医の比較からー	福田典正, 吉原重美, 土屋喬義, 山田裕美, 小野三佳, 有阪治	小児科学
日本小児難治喘息アレルギー学会誌	みんなのための喘息ガイドラインー開業医の立場からー	福田典正, 土屋喬義, 吉原重美, 有阪治	小児科学
Pediatr Int	Severe hyperbilirubinemia in a 10-years-old girl with combined disorder of hereditary spherocytosis and Gilbert syndrome	Sugita K, Maru Y, Kurosawa H, Tsuchioka T, Fujiwara T, Mori A, Ideguchi H, Eguchi M	第一外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol	Relative and Combined Performance of mammography and Ultrasonography for Breast Cancer Screening in the General Population: a Pilot Study in Tochigi Prefecture, Japan	Honjo S, Ando J, Tsukioka T, Morikubo H, Ichimura M, Sunagawa M, Hasegawa T, Watanabe T, Kodama T, Tominaga K, Sasagawa M, Koyama Y	第一外科学
Breast Cancer	The Effects of Fixation, Processing and Evaluation Criteria on Immunohistochemical Detection of Hormone Receptors in Breast Cancer	Oyama T, Ishikawa Y, Hayashi M, Arihiro K, Horiguchi J	第一外科学
Int J Surg Pathol	Cecal Adenocarcinoma With Prominent Rhabdoid Feature: Report of a Case With Immunohistochemical, Ultrastructural, and Molecular Analyses	Kono T, Imai Y, Imura J, Ono Y, Hagiwara S, Taira K, Fujita M, Tsubaki M, Sunagawa M, Fujimori T	第一外科学
Int Surg	Sigmoid Colon Cancer With Mediastinal Lymph Node Metastases	Tsubaki M, Nemoto K, Yoda N, Hashimoto R, Sunagawa M, Masawa N	第一外科学
Breast Cancer	The Relationship between FDG Uptake in PET Scans and Biological Behavior in Breast Cancer	Shimoda W, Hayashi M, Murakami K, Oyama T, Sunagawa M	第一外科学
Dokkyo J Med Sci	乳癌PET検査におけるFDG集積と病理組織学的所見との関連について	下田涉	第一外科学
World J Gastroenterol 13:4270-4327, 2007.	Ectopic hepatocellular carcinoma arising from pancreas: A case report and literature review.	Kubota K, Kita J, Rokkaku K, Iwasaki Y, Sawada T, Imura J, Fujimori T	第二外科学
J Dermatol 34: 674-676, 2007.	Case of Werner's syndrome with pancreatic carcinoma	Hamasaki Y, Yamazaki S, Hiraishi H, Hattori Y, Kasai K, Shimoda M, Kubota K, Imai Y	第二外科学
Dig Surg 24: 126-130, 2007.	Liver transplantation for hepatocellular carcinoma.	Sawada T, Kubota K	第二外科学
Heptato-Gastroenterology 80: 2306-2309, 2007.	Hepatectomy for metastatic liver tumor in patients with liver dysfunction.	Sawada T, Kita J, Nagata H, Shimoda M, Kubota K	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Transplantation 83: 510-513, 2007.	Liver transplantation in diego blood disparity: a case report.	Sawada T, Kubota K, Kita J, Furihata T, Iso Y, Kato M, Rokkaku K, Shimoda M	第二外科学
Pathobiology 74: 42-49, 2007.	Protective effect of ischemic preconditioning against liver injury after major hepatectomy using the intermittent pringle maneuver in swine.	Shimoda M, Iwasaki Y, Sawada T, Kubota K	第二外科学
World J Gastroenterol 14;13: 1500-1504, 2007.	Multi-disciplinary treatment for cholangiocellular carcinoma.	Shimoda M, Kubota K	第二外科学
Hepato-Gastroenterology 54: 1262-1265, 2007.	Is a patient with metastatic pancreatic tumor from rectal cancer a candidate for resection? J	Shimoda M, Kubota K, Kita J, Katoh M, Iwasaki Y:	第二外科学
Surg Laparosc Endosc 17: 375-379, 2007	Needlescopic cholecystectomy vs. needlescope-assisted laparoscopic cholecystectomy.	Tagaya N, Rokkaku K, Kubota K	第二外科学
Surg Laparosc Endosc 17:465-468, 2007.	Laparoscopic splenectomy for recurrent splenic cyst after laparoscopic marsupialization.	Tagaya N, Hamada K, Kubota K	第二外科学
Obes Surg 17: 1165-1170, 2007.	Evaluation of the excluded stomach by double-balloon endoscopy after laparoscopic Roux-en-Y gastric bypass for morbid obesity.	Tagaya N, Kasama K, Inamine S, Kanke K, Kanehira E, Hiraishi H, Kubota K	第二外科学
Obes Surg 17: 1567-1570, 2007.	Department of Surgery, Yotsuya Medical cube, Tokyo; Department of Surgery and Department of Gastroenterology, Nakagami Hospital, Department of Gastroenterology, Dokkyo Medical University Utility of divided omentum for preserving complications associated with laparoscopic gastric bypass.	Tagaya N, Kasama K, Kanehira E, Kubota K	第二外科学
Surg Laparosc Endosc 7: 313-316, 2007.	Department of Surgery, Yotsuya Medical cube, Tokyo Laparoscopic treatment of paraesophageal hiatal hernia with incarceration of the pancreas and jejunum.	Tagaya N, Tachibana M, Kijima H, Kakihara Y, Hamada K, Sawada T, Kubota K:	第二外科学
World J Gastroenterol 13: 467-469, 2007.	Rectal angiolioma diagnosed after surgical resection: a case report	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Horie T, Abe A, Kubota K.	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Invest Surg 21: 9-14, 2007.	Usefulness of Groshong Catheters for central venous access via the external jugular vein.	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Horie T, Sawada T, Kubota K	第二外科学
Eur Surg Res 40(2): 197-202, 2007.	External jugular groshong catheter is associated with fewer complications than a subclavian argyle catheter.	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Horie T, Furihata M, Nakagawa A, Kubota K:	第二外科学
Ann Surg 246:1047-1051, 2007.	Inflammation-based prognostic score is a novel predictor of postoperative outcome in patients with colorectal cancer.	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Horie T, Kubota K:	第二外科学
Nova Science Publishers 12: 001-005, 2007.	Ball valve gastric tumor associated with anomalous junction of the pancreato-biliary ductal system and right-sided round ligament: Report of case. Surgery Today; in press Iso Y, Sawada T, Tagaya N, Kita J, Kubota K: Xanthoglanulomatous lesion of the pancreas mimicking pancreatic cancer. Medical Science Monitor; in press Iso Y, Sawada T, Kubota K: Biomarkers of hepatocellular carcinoma.	Iso Y, Sawada T, Rokkaku K, Shimoda M, Kubota K	第二外科学
Breast J 13: 44-49, 2007.	New antineoplastic agent, MK615, from UME (a variety of) Japanese Apricot inhibits growth of breast cancer cells in vitro.	Nakagawa A, Sawada T, Okada T, Ohsawa T, Adachi K, Kubota K	第二外科学
World J Gastroenterol 13: 4589-4592, 2007.	Gastrectomy for patients with stric cancer and non-uremic renal failure.	Mori S, Sawada T, Hamada K, Kita J, Shimoda M, Tagaya N, Kubota K:	第二外科学
World J Gastroenterol 13: 6512-6517, 2007.	New anti-proliferative agent, MK615, from Japanese apricot "Prunus mume" induces striking autophagy in colon cancer cells in vitro.	Mori S, Sawada T, Okada T, Ohsawa T, Adachi M, Kubota K:	第二外科学
J Gastroenterol Hepatol 22: 1071-7, 2007.	Involvement of cyclooxygenase-2 and vascular endothelial growth factor in vascularization and lymph node metastasis of colorectal cancers with submucosal invasion.	Tomita S, Ono Y, Imai Y, Imura J, Kubota K, Fujimori T	第二外科学
Transplantation 27; 84:504-510, 2007.	Asialoerythropoietin has strong renoprotective effects against ischemia-reperfusion injury in a murine model.	Okada T, Sawada T, Kubota K:	第二外科学
World J Gastroenterol. 28;13:4401-4404, 2007.	Hepatocellular carcinoma with chronic B-type hepatitis complicated by autoimmune hemolytic anemia: A case report	Okada T, Kubota K, Kita J, Kato M, Sawada T:	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Lett 248: 24-31, 2007.	Deferoxamine enhances anti-proliferative effect of interferon- γ against hepatocellular carcinoma cells.	Okada T; Sawada T, Kubota K	第二外科学
J Hepato-Gastroenterology 8: 1770-1774, 2007.	Rapamycin enhances the anti-tumor effect of gemcitabine in pancreatic cancer cells.	kada T; Sawada T, Kubota K:	第二外科学
Heptao-Gastroenterology 79: 2129-2133, 2007	A novel anti-cancer substance, MK615, from Ume, a variety of Japanese Apricot, inhibits growth of hepatocellular carcinoma cells by suppressing aurora A kinase activity	Okada T, SawadaT, Osawa T, Adachi M, Kubota K:	第二外科学
Liver Cancer 13(1): 1-7, 2007.	脈管または胆管浸襲を伴う肝癌に対する治療戦略	窪田敬一	第二外科学
60腎と透析 62腎不全 外科 69-73, 2007.	A case of gastric endocrine carcinoma in a patient with end-stage renal disease.	Sawada T, Rokkaku K, Shimoda M, Kubota K:	第二外科学
外科 69: 1537-1543, 2007	先天性胆管拡張症・胰胆道合流異常症.	澤田登起彦, 窪田敬一	第二外科学
手術 61: 1337-1340, 2007.	腹腔鏡下脾臓摘出術および胆囊摘出術を施行した遺伝性球状赤血球症の1例.	多賀谷信美, 橋昌嗣, 濱田清誠, 澤田登起彦, 窪田敬一	第二外科学
手術 61: 1833-1836, 2007.	腹腔鏡下イレウス解除術を施行した術後癒着性イレウスの1例.	多賀谷信美, 降旗正, 濱田清誠, 窪田敬一	第二外科学
Progress of Digestive Endoscopy 70: 43-45, 2007.	オーバーチューブ使用による経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)後の合併症の検討	手竹東正二郎, 堀江健司, 柿原康晴, 島田恵太, 大木一郎, 多賀谷信美	第二外科学
消化器外科 30(1): 1-11, 2007.	腹腔鏡下Roux-en Y胃バイパス術	笠間和典, 金平永二, 多賀谷信美, 梅沢昭子, 黒崎哲也, 大城崇司, 黒川良望	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術 61:1473-1478, 2007.	四谷メディカルキューブ乳癌-獨協医科大学病理部. 群馬大学大学院臓器病態外科学胆管-空腸吻合術	小山徹也, 石川裕子, 多賀谷信美, 堀淳, 北順二, 窪田敬一	第二外科学
胆と膵 28:393-399, 2007.	肝胆膵外科領域におけるPET/CTによる融合画像と3次元画像への応用	北順二, 窪田敬一, 村上康二	第二外科学
胆と膵 28:427-431, 2007.	獨協医科大学P E Tセンター電気メスを用いた膵切離による膵頭十二指腸切除術	北順二, 窪田敬一	第二外科学
消化器疾患. 獨協医学 会雑誌 34: 315-322, 2007.	救急疾患の診療の実際	北順二	第二外科学
消化器外科 30: 1629-1633, 2007	結腸軸捻転症	永田仁, 高木和俊, 石塚 満, 窪田敬一	第二外科学
「エストロゲンレセプ ター」. 日本臨床 65: 74-80, 2007. 52: 553-557, 2006	抗癌剤投与経路としての中心静脈カテーテル関連感染症に対するリスクファクターの検討. 癌の臨床アッ プデーター	石塚満, 永田仁, 高木和俊, 堀江徹, 窪田敬一	第二外科学
消化器外科 29(1): 52-59, 2006.	下部消化手術症例における. 周術期中心静脈高力口 リ一輸液療法の功罪消化と吸収	石塚満, 永田仁, 高木和俊, 堀江徹, 窪田敬一	第二外科学
消化器科 45(1): 33-37, 2007.	消化器疾患における絶飲食療法と栄養管理 下部消化 管周術期における高力口リ一輸液療法の功罪、カテーテル関連感染に対する対策について	石塚満, 永田仁, 高木和俊, 堀江徹, 窪田敬一	第二外科学
日本大腸肛門病学会雑 誌 60(8): 441-447, 2007.	大腸穿孔による汎発性腹膜炎症例の重症度評価におけ るPOSSUMとCR(Colorectal)-POSSUMの比較検討.	石塚満, 永田仁, 高木和俊, 堀江徹, 窪田敬一	第二外科学
手術 61(6): 671-676, 2007.	肝左葉切除.	加藤正人, 窪田敬一	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術 61(12): 1759-1763, 2007.	手術における助手の役割—肝左葉切除術.	加藤正人, 窪田敬一	第二外科学
Liver Cancer 13(2): 152-159, 2007.	ラジオ波焼灼療法後の再発肝細胞癌に対して外科治療を施行した1例	北順二, 下田貢, 根本猛彦, 六角丘, 磯幸博, 澤田登起彦, 窪田敬一	第二外科学
医学のあゆみ 222(1): 42-44, 2007	脾癌診断におけるPET-CTの有用性	磯幸博, 澤田登起彦, 窪田敬一, 村上康二	第二外科学
Liver Cancer 13(1): 68-75, 2007.	臨床画像的に限局性結節性過形成との鑑別に苦慮した中分化型肝細胞癌の1例	北順二, 根本猛彦, 澤田登起彦, 窪田敬一, 村上康二, 富田茂樹,	第二外科学
消化器科 44(2): 179-184, 2007	大腸腫瘍の発育進展—その形態と遺伝子異常	武川賢一郎, 福井広一, 藤井茂彦, 吉竹直人, 山岸秀嗣, 阿部暁人, 藤盛孝博	第二外科学
消化器科 44(2): 179-184, 2007	大腸腫瘍の発育進展—その形態と遺伝子異常	武川賢一郎, 福井広一, 藤井茂彦, 吉竹直人, 山岸秀嗣, 阿部暁人, 藤盛孝博	第二外科学
Ann Thorac Cardiovasc Surg 13: 9-14, 2007.	Prognostic significance of p21 protein expression in patients with pulmonary squamous cell carcinoma following induction chemotherapy.	Tamura M, Sawabata N, Kobayashi S, Umezawa H, Seki N, Yoshii N, Karube Y, Araki O, Ishihama H, Nagai S, Miyoshi S	外科学（胸部）
Gen Thorac Cardiovasc Surg 55: 416-419, 2007.	Initial clinical experience with a new end graft holder for anastomosis in coronary surgery.	Shimamura Y, Mochizuki Y, Yamada Y, Eda K, Shibasaki I, Inoue Y, Saito F, Miyoshi S	外科学（胸部）
Gen Thorac Cardiovasc Surg 55: 420-424, 2007.	Prognosis of smokers following resection of pathological stage I non-small-cell lung carcinoma.	Sawabata N, Miyoshi S, Matsumura A, Ohta M, Maeda H, Sueki H, Hayakawa M, Okumura M, Sawa	外科学（胸部）
日本呼吸器外科学会雑誌 21:866-870, 2007.	胸椎近傍胸壁浸潤非小細胞肺癌に対する術前導入療法の検討.	梅津英夫, 澤端章好, 荒木修, 斎部陽子, 関哲男, 田村元彦, 小林哲, 石濱洋美, 長井千輔, 三好新一郎	外科学（胸部）

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
spine 7:293-304, 2007	Efficacy in reconstituting the cervical musculature and preserving biomechanical function. J Neurosurg	Phyo Kim, Hidetoshi Murata, Ryu Kurokawa, Yoshiyuki Takaishi, Keizo Asakuno, , and Toshiki Kawamoto :	脳神経外科学
Brian Tumor Pathol (2007) 24:15-18	Comparison of numerical change of epidermal growth factor receptor gene among pre- and postradiation glioma, and gliosis, and its clinical use.	Yoshifumi Okada, Chihiro Ohno, Keisuke Ueki, Masahiro Ogino, Shunsuke Kawamoto, Phyo Kim:	脳神経外科学
Brain Tumor Pathology.;24(1):15-8. 2007.	The comparison of numerical change of epidermal growth factor receptor gene among pre- and post-radiation glioma, and gliosis, and its clinical use.	Okada Y, Ohno C, Ueki K, Ogino M, Kawamoto S, and Phyo Kim.	脳神経外科学
Histopathology 52:183-193, 2008	Pleomorphic xanthoastrocytoma: a comparative pathological study between conventional and anaplastic types.	Hirose T, Ishizawa K, Sugiyama K, Kageji T, Ueki K, Kannuki S:	脳神経外科学
Neurosurgery. 60(4):E777-8, 2007.	Neuromuscular choristoma of the oculomotor nerve: case report.	Kawamoto S, Matsuda H, Ueki K, Okada Y, Kim P.	脳神経外科学
Brain Tumor Pathol 24: 15-8, 2007.	Comparison of numerical change of epidermal growth factor receptor gene among pre- and postradiation glioma, and gliosis, and its clinical use.	Okada Y, Ohno C, Ueki K, Ogino M, Kawamoto S, Kim P:	脳神経外科学
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	Effects of hyperbaric oxygen on gene expressions of procollagen, matrix metalloproteinase and tissue inhibitor of metalloproteinase in injured medial collateral ligament and anterior cruciate ligament	Takeyama N, Sakai H, OtakeH, Mashitorii H, Tamai K, Saotome K	整形外科学
Hand Surgery (Asian Volume)	Persistent posterolateral rotatory subluxation of the elbow in cubitus varus. A case report.	Osada D, Kameda M, Tamai K	整形外科学
東日本整形災害外科学会雑誌	手根管症候群に対するSF-36®とDASHによる評価の試み	亀田正裕, 藤田聰志, 長田伝重, 亀井秀造, 玉井和哉, 野原裕	整形外科学
骨折	陳旧性橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートを用いた観血的整復内固定術の経験	藤田聰志, 長田伝重, 亀井秀造, 亀田正裕, 高井盛光, 玉井和哉	整形外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肩関節	上腕骨近位端骨折のNeer分類 -JSSデータベースの分析-	玉井和哉, 大野弥, 竹村通雄, 黒田雅大, 浜田純一郎	整形外科学
骨折	A0-C型橈骨遠位端関節内骨折に対する掌側ロッキングプレート固定の治療成績と問題点	長田伝重, 藤田聰志, 亀井秀造, 加藤仲幸, 亀田正裕, 玉井和哉	整形外科学
東日本整形災害外科学会雑誌	舟状骨不顕性癒合例の検討	長田伝重, 亀井秀造, 亀田正裕, 富沢一生, 玉井和哉, 野原裕	整形外科学
日本脊髄障害医学会雑誌	国産のTotal spinal instrumentation system(MYKRES)の短期成績と開発に関する問題点	中原進之介, 鈴木信正, 野原裕, 佐藤栄修, 植山和正, 長谷川和宏	整形外科学
Dokkyo J Med Sci	三次元有限要素法による橈骨遠位端骨折発生メカニズムの解析	富沢一生	整形外科学
日本手の外科学会雑誌	Symmetry plateとDRV Locking plateによるAO C3型橈骨遠位端骨折の治療成績の比較	亀井秀造, 長田伝重, 藤田聰志, 加藤仲幸, 玉井和哉	整形外科学
別冊整形外科	高齢者の橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートによる治療	長田伝重, 亀井秀造, 玉井和哉, 高井盛光, 益崎浩一郎, 富沢一生, 亀田正裕, 野原裕	整形外科学
日本手の外科学会雑誌	掌側転位型橈骨遠位端関節内骨折に対する掌側ロッキングプレート固定の治療成績と問題点	長田伝重, 亀井秀造, 富沢一生, 亀田正裕, 野原裕	整形外科学
Cur Drug Ther 2 (1): 79-84, 2007.	Which b-adrenoceptor subtypes are important in the treatment of overactive bladder?	Yamanishi T, Kamai T, Yasuda K, Sakakibara R, Uchiyama T, Yoshida K-I	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 26(4): 518-24, 2007.	Psychogenic urinary dysfunction: a uro-neurological assessment.	Sakakibara R, Uchiyama T, Awa Y, Liu Z, Yamamoto T, Ito T, Yamamoto K, Kinou M, Yamaguchi C.	泌尿器科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Infect Chemother. 13: 324-331, 2007.	Randomized prospective comparison of fosfomycin and cefotiam for prevention of postoperative infection following urological surgery.	Ishizaka K, Kobayashi S, Machida T, Yoshida K-I	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 26: 767-772, 2007.	Randomized, double-blind, sham-controlled evaluation of the effect of functional continuous magnetic stimulation in patients with urgency incontinence.	Suzuki T, Yasuda K, Yamanishi T, Kitahara S, Nakai H, Suda S, Ohkawa H	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 16: 807-813, 2007.	Overactive bladder in diabetes: A peripheral or central mechanism?.	Yamaguchi C, Sakakibara R, Uchiyama T, Yamamoto T, Ito T, Liu Z, Awa Y, Yamamoto K, Nomura F, Yamanishi T, Hattori T	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 16: 904-907, 2007.	Defining overactive bladder as hypersensitivity.	Yamaguchi O, Honda K, Nomiya M, Shishido K, Kakizaki H, Tanaka H, Yamanishi T, Homma Y, Takeda M, Araki I, Obara K, Nishizawa O, Igawa Y, Goto M, Yokoyama O, Seki N, Takei M, Yoshida M.	泌尿器科学
BMC Cancer. 159(7): 1-11, 2007.	Increased interferon alpha receptor 2 mRNA levels is associated with renal cell carcinoma metastasis.	Kamai T, Yanai Y, Arai K, Abe H, Yamanishi T, Kurimoto M, Yoshida K-I	泌尿器科学
日排尿会誌 17: 250- 256, 2007.	eractive bladder questionnaire (OAB-q) の日本語版の計量心理学的検討。	本間之夫, 後藤百万, 横山修, 西澤理, 山西友典, 武井実根雄, 吉田正貴, 武田正之, 柿崎秀宏, 山口脩	泌尿器科学
泌尿器外科 20 (7) : 861-869, 2007.	ナフトピジルの臨床的有用性の討—ナフトピジルと塩酸タムスロシンの臨床比較—.	石坂和博, 町田竜也, 田中将樹, 川村尚子, 中村圭輔, 阿部英行, 吉田謙一郎	泌尿器科学
J Cataract Refract Sur 33: 1133-1134, 2007.	Prevention of posterior capsule opacification using round-edged PMMA IOL.	Matsushima H, Iwamoto H, Mukai K, Senoo T, Obara Y:	眼科学
Jpn J Ophthalmol 51:181-184, 2007.	Vixual acuity prognosis after anterior chamber air replacement to prevent pseudo-anterior chamber formation after deep lamellar keratoplasty.	Senoo T, Chiba K, Terada O, Hasegawa K, Obara Y:	眼科学
Invest Ophthalmol Vis Sci 48(10): 4679-87, 2007.	An in vitro model of posterior capsular opacity: SPARC and TGF- β 2 minimize epithelial-to-mesenchymal transition in lens epithelium.	Gotoh N, Perdue NR, Matsushima H, Sage EH, Yan Q, Clark JI:	眼科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科手術 20(1): 49-53, 2007.	白内障切開創の極小化におけるスリットナイフの精度.	松島博之, 野堀秀穂:	眼科学
Dokkyo Journal of Medical Sciences 34(1): 29-33, 2007.	予備校模擬試験を用いた学生の不得意問題抽出の試み.	一杉正仁, 菅谷仁, 平林秀樹, 下田和孝, 妹尾正, 田所望, 古田裕明, 上田秀一:	眼科学
IOL & RS 21(1): 95-99, 2007.	白内障術中合併症のリカバリー法 切開創作成時.	松島博之:	眼科学
眼科手術 20: 247-250, 2007.	各種スリットナイフによる創形成および切開創への負荷.	野堀秀穂, 松島博之, 高橋佳二, 小原喜隆:	眼科学
臨床眼科 61: 697-704, 2007.	眼内レンズ—最近の進歩.	松島博之:	眼科学
あたらしい眼科 24: 809-814, 2007.	粘弾性物質を応用した蒸留水灌流と後発白内障抑制.	向井公一郎, 松島博之, 妹尾正, 小原喜隆:	眼科学
あたらしい眼科 24: 863-869, 2007.	レーザー虹彩切開術後水疱性角膜症の病態 一過剰凝固説一.	妹尾正, 高山良, 千葉桂三:	眼科学
あたらしい眼科 24(8): 1095-1098, 2007.	加齢白内障症例の前房水と水晶体蛋白質の成分解析.	永田万由美, 松島博之, 向井公一郎, 妹尾正, 小原喜隆:	眼科学
IOL & RS 21: 433-436, 2007.	オペセーバーの効果.	小出義博, 松島博之, 大木孝太郎:	眼科学
眼科臨床医報 101: 1075-1078, 2007.	結膜結石の元素分析.	千葉桂三, 寺田理, 妹尾正:	眼科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Immunology	The effects of montelukast on tissue inflammatory and bone marrow responses in murine experimental allergic rhinitis; interaction with interleukin-5 deficiency.	Johanna Roa, Morikawa H, Lynn Crawford, Adrian Baatjes, Mylinh Duong, Judah A	耳鼻咽喉科学
Dokkyo J Med Sci	医師国家試験における頻出事項についての解析	一杉正仁, 菅谷仁, 妹尾正, 平林秀樹, 下田和孝, 田所望, 古田裕明, 五十嵐吉彦, 上田秀一	耳鼻咽喉科学
日本気管食道科学会会報	頸部および開胸ドレナージにより救命し得た下降性壞死性縦隔炎の2症例	齊藤寛, 盛川宏, 平林秀樹, 馬場廣太郎, 春名真一, 小林哲, 三好新一郎	耳鼻咽喉科学
Otology Japan	コラーゲンスponジ(テルダーミス)を用いた鼓膜穿孔閉鎖術の検討	深美悟, 平林秀樹, 馬場廣太郎, 春名真一	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科展望	視器障害を伴う後部副鼻腔囊法の臨床的検討	飯村慈朗, 蒲伸泰, 平林秀樹, 春名真一	耳鼻咽喉科学
Dokkyo J Med Sci	予備校模擬試験を用いた学生の不得意問題抽出の試み	一杉正仁, 菅谷仁, 平林秀樹, 下田和孝, 妹尾正, 田所望, 古田裕明, 上田秀一	耳鼻咽喉科学
Scand J Immunol 1-6, 2007	Biochip Array-based Analysis of Plasma Cytokines in HIV Patients with Immunological and Virological Discordance.	Sachdeva N, Yoon S, Oshima K, Garcia D, Goodkin K, Asthana D	産科婦人科学
Biopsychosoc Med 12, 2007	Pilot study of flucoxamine treatment for climacteric symptoms in Japanese women.	Oishi A, Mochizuki Y, Otsu, Inaba N	産科婦人科学
Gynecol Obstet Invest 63: 7-10, 2007	Recent changes of the incidence of complete and partial mole in Chiba prefecture	Matsui H, Kihara M, Yamazawa K, Mitsuhashi A, Seki K, Sekiya S	産科婦人科学
Am J Obstet Gynecol 197:505.e1-7, 2007	Isaka K Serum p53 antibody as a diagnostic marker of high-risk endometrial cancer	Yamazawa K, Shimada H, Hirai M, Hirashiki K, Ochiai T, Ishikura H, Shozu M	産科婦人科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Repro	Isaka K Fertility-preserving treatment and pathological criteria to predict response to progestin in young women with endometrial cancer	Yamazawa K, Hirai M, Fujito A, Nishi H, Terauchi F, Ishikura H, Shozu M	産科婦人科学
The Journal of AIDS Research 9 6-10, 2007.	予防と対策「スクリーニング無くして対策無し」HIV MTCT: Prevention and Measures HIV Screening in Pregnant Women Is the First Step to Prevent HIV Mother - to - Child Transmission (MTCT)	稻葉憲之, 大島教子, 西川正能, 岡崎隆行, 庄田亜紀子, 根岸正実, 林田志峯, 稲葉未知世, 他	産科婦人科学
感染症学会誌 81: 675-680, 2007.	妊娠における麻疹中和抗体価, HI抗体価, PA抗体価の相関と各測定法の発症予防レベル	高山直秀, 庄田亜紀子, 岡崎隆行, 一戸貢人, 斎加志津子, 稲葉憲之	産科婦人科学
Reg Anesth Pain Med 32: 97-101, 2007	Comparison of 0.25% levobupivacaine, 0.25% bupivavaine, and 0.125% bupivacaine for duration and magnitude of action in peripheral arterial blood flow induced by sympathetic block in dogs	Iwasaki T, Takahashi Y, Kimura Y, Yamazaki H, Yamaguchi S, Kitajima T	麻酔科学
Brain Research 1135: 92-101, 2007	NMDA receptor 2B subunit-mediated synaptic transmission in the superficial dorsal horn of peripheral nerve-injured neuropathic mice	Iwata H, Takasusuki T, Yamaguchi S, Hori Y	麻酔科学
Eur J Neurosci 26: 2179-2187, 2007	Enhancement of synaptic transmission and nociceptive behaviour in HPC-1/syntaxin 1A knockout mice following peripheral nerve injury	Takasusuki T, Fujiwara T, Yamaguchi S, Fukushima T, Akagawa K, Hori Y	麻酔科学
心理的評価. 日本ペインクリニック学会誌, 14: 401-405, 2007	帶状疱疹後神経痛患者の精神・心理的評価.	池田知史, 吉田伸司, 渡辺正嗣, 高薄敏史, 山口重樹	麻酔科学
栃木県医学会会誌, 12: 32-35, 2007	軽度脳低体温療法プロトコールの問題点と展望	菊池仁, 岩田健司, 神津成紀, 根本真人, 和氣晃司, 小野一之, 崎尾秀彰 他	麻酔科学
栃木県医学会々誌	「軽度脳低体温療法プロトコールの問題点と展望」	今高城治, 根岸正穂, 山内秀雄, 片塩仁, 菊池仁, 岩田健司, 神津成紀, 増田雄彦, 根本真人, 和氣晃司, 小野一之, 崎尾秀彰	救急医学
Dokkyo J Med Sci	Involvement of K ⁺ Channels and Na ⁺ , K ⁺ -ATPase in Relaxant Actions of Selective Phosphodiesterase 3 Inhibitors on Airway and Vascular Smooth Muscles Isolated from Guinea-pigs	Tsurumi T, Uchida K	救急医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Brain Tumor Pathol	The comparison of numerical change of epidermal growth factor receptor gene among pre- and post-radiation glioma, and gliosis, and its clinical use.	Okada Y, Ohno C, Ueki K, Ogino M, Kawamoto S, and Phyto Kim	救急医学
Neurosurgery	Neuromuscular choristoma of the oculomotor nerve: case report.	Kawamoto S, Matsuda H, Ueki K, Okada Y, Kim P	救急医学
Reg Anesth Pain Med	Comparison of 0.25% levobupivacaine, 0.25% bupivavaine, and 0.125% bupivacaine for duration and magnitude of action in peripheral arterial blood flow induced by sympathetic block in dogs.	Iwasaki T, Takahashi Y, Kimura Y, Yamazaki H, Yamaguchi S, Kitajima T	救急医学
Brain Res	NMDA receptor 2B subunit-mediated synaptic transmission in the superficial dorsal horn of peripheral nerve-injured neuropathic mice.	Iwata H, Takasusuki T, Yamaguchi S, Hori Y	救急医学
Dokkyo J Med Sci	Comparison of 0.2% ropivacaine and 0.25% bupivacaine in pediatric caudal block: evaluation of postoperative pain and plasma concentration of local anesthetics.	Hashizume Y, Yamaguchi S, Fukagawa D, Ikeda T, Nagai T, Kitajima T	救急医学
Int J Oncology	Oncogenic mutation of p53 gene derived from head and neck cancer cell lines prevents cells from undergoing apoptosis after DNA damage	Kawamata H, Omotehara F, Nakashiro K, Uchida D, Shinagawa Y, Tachibana M, Imai Y, Fujimori	口腔外科学
Scandinavian Journal of Gastroenterology	Colonic expression of heme oxygenase-1 is associated with a better long-term survival in patients with colorectal cancer	Becker JC, Fukui H, Imai Y, Sekikawa A, Kimura T, Yamagishi H, Yoshitake N, Pohle T,	口腔外科学
Eur J Appl Physiol 2007;100, 275-285	Hemodynamic and neurohumoral responses to the restriction of femoral blood flow by KAATSU in healthy subjects.	Iida H, Kurano M, Kubota N, Morita T, Meguro K, Sato Y, Abe T, Yamazaki Y, Uno K, Takenaka K, Hirose K, Nakajima T	リハビリテーション科学
Hypertens Res 30: 945-950, 2007	Lower birth weight is associated with higher resting heart rate during boyhood	Abe C, Minami J, Ohrui M, Ishimitsu T, Matsuoka H	健康管理科
Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 41(1): 14-21, 2007.	Reconstruction of maxillectomy defects with free flaps - comparison of immediate and delayed reconstruction: A retrospective analysis of 51 cases.	Takushima A, Harii K, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Asato H:	形成外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Plast Surg 58(2): 182-185, 2007.	Free jejunal transfer for patients with a history of esophagectomy and gastric pull-up.	Suga H, Okazaki M, Sarukawa S, Takushima A, Asato H:	形成外科学
J Reconstr Microsurg 23(4): 213-218, 2007.	One-segment double vascular pedicled free jejunum transfer for the reconstruction of pharyngoesophageal defects.	Okazaki M, Asato H, Okochi M, Suga H:	形成外科学
Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 41(2): 59-64, 2007.	Secondary reconstruction of the eye socket in a free flap transferred after complete excision of the orbit.	Miyamoto S, Takushima A, Asato H, Yamada A, Harii K:	形成外科学
J Reconstr Microsurg 23(5): 243-249, 2007.	Reconstruction with rectus abdominis myocutaneous flap for total glossectomy with laryngectomy.	Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Okochi M, Suga H, Harii K:	形成外科学
Plast Reconstr Surg 119(4): 1223-32, 2007.	Analysis of salvage treatments following the failure of free flap transfer caused by vascular thrombosis in reconstruction for head and neck cancer.	Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Nakatsuka T, Yamada A, Harii K	形成外科学
J Biol Chem 282(28): 20407-20415, 2007.	Optimal combination of soluble factors for tissue engineering of permanent cartilage from cultured human chondrocytes.	Liu G, Kawaguchi H, Ogasawara T, Asawa Y, Kishimoto J, Takahashi T, Chung U, Yamaoka H, Asato H, Nakamura K, Takato T, Hoshi K:	形成外科学
日本シミュレーション外科学会会誌15(1-2): 7-13, 2007.	小耳症における術前評価としての三次元CTの利用。	沖 正直, 朝戸裕貴, 鈴木康俊, 内藤 崇, 加地展之, 三苦葉子, 加我君孝:	形成外科学
形成外科 50(8): 877-885, 2007.	上顎癌切除後の二次変形の治療-再建材の選択-	朝戸裕貴, 鈴木康俊, 菅 浩隆, 岡崎 睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:	形成外科学
形成外科 50(8): 895-903, 2007.	上顎癌切除後の頬部皮膚欠損の二次再建-Tissue expansion法による方法-	上田和毅, 梶川明義, 鈴木康俊, 大河内真之, 広瀬太郎, 浅井笑子, 阪場貴夫:	形成外科学
頭頸部癌33(3): 394-399, 2007.	遊離空腸パッチ移植を用いた再建: 90度回転した方向での移植法。	岡崎 睦, 朝戸裕貴, 去川俊二, 大河内真之, 菅 浩隆, 多久嶋亮彦, 朝蔭孝宏, 中尾一成, 二藤隆春, 木村美和子, 平野浩一, 海老原 敏, 波利井清紀:	形成外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Facial N Res Jpn 27: 196-198, 2007.	下口唇麻痺に対して筋切離術を加えた治療の経験.	鈴木康俊, 朝戸裕貴, 福田憲翁, 梅川浩平, 沖正直, 倉林孝之, 上田和毅:	形成外科学
Gastroenterol Endosc 49: 324-334, 2007	小腸用カプセル内視鏡の日本人における多施設共同研究報告—原因不明消化管出血を中心に—	中村哲也, 荒川哲男, 千葉勉, 日比紀文, 寺野彰 他	消化器内視鏡センター
Laser Therapy 16. 1: 11-16, 2007	Modified photodynamic therapy for gastrointestinal cancers	Nakamura T, Fukui H, Fujimori T, Hiraishi H, Terano A 他	消化器内視鏡センター
Gastrointest Endosc. 66(4): 827-828, 2007.	Pyogenic granuloma of the small intestine.	Shirakawa K, Nakamura T, Endo M, Suzuki K, Fujimori T, Terano A	消化器内視鏡センター
早期大腸癌 11: 266-267, 2007	カプセル内視鏡により経過を観察し得たNSAIDs潰瘍の1症例	中村哲也, 生沼健司, 山岸秀嗣, 平石秀幸, 寺野彰	消化器内視鏡センター
Endoscopy Case Library 268, 2007	Early diagnosis and successful treatment of small intestinal carcinoid tumor: useful combination of capsule endoscopy and double-balloon endoscopy	Yamagishi H, Oinuma T, Hiraishi H, Terano A, Fujimori T, Nakamura T 他	消化器内視鏡センター
医療薬学	PETセンターホットラボにおける線量率分布と従事者の被ばく線量低減の工夫	小曾戸圭子, 大森光治, 伊藤好夫, 柴田秀郎, 村上康二, 高橋克彦, 異伸一郎, 倉橋正浩, 越川千秋	薬剤部

計 277

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なもの を記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 北島 敏光					
管理担当者氏名	庶務課長 影山 善久 診療記録管理部 河合 輝道 連携医療部 麻生 保	医事保険課長 渡邊 栄 医療安全対策課 五月女 弘実				

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療記録管理部 薬剤部 手術部	カルテ、エックス線写真とも入院・外来を含む1患者1ファイル方式として管理している
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事保険課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績	庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	連携医療部 医事保険課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染防止対策課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策課	
確規保則の第9条の2及び第3条の1各号に掲げる体制	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全対策課	

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染防止対策課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染防止対策課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染防止対策課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染防止対策課	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要な情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	経理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課	
		医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	経理課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 中田英夫
閲覧担当者氏名	庶務課長 影山善久
閲覧の求めに応じる場所	事務部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医 師 延 0 件
	歯 科 医 師 延 0 件
	国 延 0 件
	地 方 公 共 団 体 延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	47.3 %	算 定 期 間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算 A : 紹 介 患 者 の 数			17,305 人
出 B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,774 人
根 C : 救急用自動車によって搬入された患者の数			3,709 人
拠 D : 初 診 の 患 者 の 数			55,309 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規程第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④(有) (1名)・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④(有) (1名)・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④(有)・無
<p>・所属職員：専任（5）名（専任安全管理者1名含む） 兼任（2）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>組織横断的に院内の安全管理を担う部門として医療安全管理部医療安全対策課を置き、次に掲げる業務を遂行している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会、リスクマネジャー小委員会及び医療事故対策委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会等の庶務に関すること。 2) 医療事故防止対策マニュアルの改訂についての企画、原案の作成、各種委員会への提案及び制定に関すること。 3) 医療安全に関する院内パトロールの実施に関すること。 4) インシデント・アクシデント情報の収集、分析と改善策立案に関すること。 5) インシデント・アクシデント情報に関する改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること。 6) 医療安全対策研修会の開催（講習内容・講師選定・運営・まとめ）に関すること。 7) 厚生労働省が推進する医療安全対策ネットワーク事業に伴う、インシデント・アクシデント情報の報告〔報告先：（財）日本医療機能評価機構〕に関すること。 8) 医療安全対策院内広報誌（医療安全対策課広報・毎月1回発行）の発行に関すること。 9) その他、医療安全対策に係る連絡調整に関すること。 	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④(有)・無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	④(有)・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方と長期的目標 【基本方針】 厚生労働省の基本方針に沿って本院においてもこれを基本方針として取り組みを進めている。 <ol style="list-style-type: none"> ① 安全管理のための病院指針の整備 ② 安全管理のための医療事故等院内報告制度の整備 ③ 安全管理のための委員会の定期開催 ④ 安全管理のための職員研修の開催の義務化 【長期的目標】 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者様最優先の医療を徹底する。 ② 患者様の満足度を高める医療を行う。 ③ 医療従事者は、常に「危機意識」を持ち業務にあたる。 ④ 医療行為においては、確認・再確認・相互確認等を徹底する。 ⑤ 患者様との円滑なコミュニケーションとインフォームドコンセントに配慮する。 	

- ⑥ 記録は正確かつ丁寧に記載し、チェックを行う。
- ⑦ 情報の共有化を図る。
- ⑧ 自己の健康管理と職場のチームワークのもとにチーム医療を遂行する。
- ⑨ 医療事故防止のための教育・研修システムを実行する。

また、この他に病院の理念を下記のとおり定めている。

- ① 高度で良質な医療の提供
- ② 医療倫理の徹底
- ③ 医療の進歩への貢献
- ④ 良質な医療人の育成
- ⑤ 連携医療の構築

2. 医療安全管理に関する各種委員会・組織等の活動と改善の方策

① 医療安全管理委員会

獨協医科大学病院の医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するための委員会の1つである。委員会は、病院長の諮問に応じ所掌業務について調査審議し、経過又は結果を病院長に報告する他、所掌業務について病院長に建議する。委員会は定例的に毎月1回とし、隨時必要に応じて開催する。

② 医療事故対策委員会

病院長を委員長とした委員会で、大学病院運営委員会常任委員会の委員をもって構成する。委員会は発生した医療事故の報告を受け、事故の対策にあたる。

③ リスクマネジャーの配置

医療安全管理委員会は、病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討し決定する組織であるが、これとは別に、実際にそれぞれの医療現場で事故防止の取り組みを行う体制を整備するため、その中心的な役割を担う教職員として、「リスクマネジャー」を任命（79名）しており、インシデント事例の報告内容の把握、検討等を行い、医療事故の防止の任にあたっている。

④ 医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会

医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会は、各部門と医療安全管理委員会とを結ぶ役割を担うものであり、両者の密接な連絡を図ること、さらに医療事故防止対策を実効あるものとするために、医療安全管理委員会の下部組織としてリスクマネジャー委員会を設置している。委員会は、医療安全管理委員会の方針に添って事故の分析や安全対策の具体策について調査検討する。

なお、事故に繋がりやすい項目については、リスクマネジャー小委員会（薬剤、転倒・転落、インフォームドコンセント、輸血、医療機器・用具、事故後対応、手術事故防止、ルート管理、深部静脈血栓症）に分かれ、発生原因の分析・改善策の立案及び改善策実施状況の検証を行っている。

⑤ 病院診療部長会議、病院連絡会

病院診療部長会議、病院連絡会等の会議を通じて、医療安全管理委員会、医療事故対策委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会等からの事項を周知させている。

3. アクシデント・インシデント報告について

医療事故（＝アクシデント）は、医療が行われる場所で医療の全過程で発生する全ての人身事故を包含する言葉として使用し、医療従事者に「過失がない」場合と「過失がある」場合を問わない。このような場合には、速やかにアクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。しかし「過失がある」場合は、これを分けて「医療過誤」と称する。例えば、医療の過程において医療従事者が

当然払うべき業務上の注意義務を怠りこれによって患者に障害を及ぼした場合をいう。これについては、アクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うとともに、「問題（又は問題となりうる）事例届（規程別紙様式2）」を提出することとしている。

また、インシデントについては、日常診療の現場で、“ヒヤリ”としたり“ハッ”とした経験について、インシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「インシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。

なお、インシデント報告に当たっては、当該報告をしたことを理由に不利益となる処分は行わないこととしている。

4. 医療安全の管理のための職員研修に関する基本方針

医療安全対策の取り組みを進める上で、教職員一人ひとりが安全に対する意識を高め、対応能力の向上を図ることが重要であることを踏まえて、教職員の教育・研修を行っている。職種別、部署別に医療安全対策に対しての検討、又は研修会を随時行う他、全教職員を対象とする研修会を年2～4回行い、医療事故防止に対する意識の高揚を図ることとしている。

5. 医療事故（医療過誤）発生時の対応

医療事故が発生した場合、事故かニアミスか、また、事態が病院側の過誤に起因するのかそうではないのかとの判断は極めて重要なことではあるが、まず、患者サイドに立ち当院として対応すべき基本となることを明記した。従って、本対応は主として相当に重大な事故が発生した場合を念頭に置きつつ、事故かどうか判然としないような場合も視野に入れた内容としている。

6. 安全管理体制についての情報開示について

病院の安全管理体制は患者にとっても重要な関心事項であることを考慮して、秘密保護が必要な情報を除き、ホームページにて情報開示している。

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	平成19年度 年 12回
------------------------	-----------------

・活動の主な内容

＜所掌業務＞

- (1) 医療安全対策の検討及び研究に関すること
- (2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
- (3) 医療安全対策のための職員に対する指示に関すること
- (4) 医療安全対策のために行う提言に関すること
- (5) 医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
- (6) その他、医療安全対策に関すること

＜具体的活動内容＞

1. 平成19年5月1日開催

- ①3月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②平成19年度医療安全管理委員会委員の確認
- ③平成19年度リスクマネジャーの確認
- ④平成19年度第1回医療安全対策講習会実施結果報告
- ⑤AED指導者の任命について

2. 平成19年5月28日開催

- ①4月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全に関する事項の周知状況検証調査の実施について
- ③平成19年度リスクマネジャー委員会の実施について
- ④平成19年度リスクマネジャーサンクション委員会の確認について

⑤平成19年度第2回医療安全対策実技講習会実施結果報告

⑥平成19年度第3回医療安全対策ビデオ講習会の実施について

3. 平成19年6月27日開催

①5月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②平成19年度第3回医療安全対策ビデオ講習会実施結果報告

③平成19年度第4回医療安全対策講習会の実施について

④新「医療安全管理マニュアル（ポケット版）」の配付について

⑤「平成18年度リスクマネジャー小委員会活動内容報告会－発表集録－」の確認

⑥医療に関わる安全管理のための指針（基本方針）について

4. 平成19年7月23日開催

①6月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②平成19年度第4回医療安全対策講習会実施結果報告

③放射線部からの要望（医療安全対策講習会の承認）について

④医療に係る安全管理のための指針（基本方針）について

⑤医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロールの実施

5. 平成19年8月27日開催

①7月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②「医療安全に関する事項の周知状況検証調査」集計結果報告

③医療安全情報（院内広報誌）の公開（ホームページ掲載）について

④医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロール実施結果報告

6. 平成19年9月19日開催

①8月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②平成19年度医療監視の実施について

③医療安全対策講習会の実施について

④私立医科大学病院相互ラウンドの実施について

7. 平成19年10月29日開催

①9月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②平成19年度医療監視実施結果報告

③医療安全対策講習会実施結果報告

④リスクマネジャー小委員会からの要望について

8. 平成19年11月26日開催

①10月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②医療安全対策講習会実施結果報告

③私立医科大学病院間相互チェックの実施について

④平成19年度医療安全推進週間の取り組みについて

⑤医療機器安全ニュースの発行について

9. 平成19年12月26日開催

①11月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②医療安全対策ビデオ講習会実施結果報告

③インシデント事例に対する再発防止対策について

④医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロールの実施

10. 平成20年1月28日開催

①12月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②医療安全対策ビデオ講習会実施結果報告

③医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロール実施結果報告

④「人工呼吸器操作訓練」の実施について

⑤採血に係るマニュアルの確認について

⑥「PCA：患者自己管理鎮痛法」導入について

1. 平成20年2月25日開催

①1月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②「人工呼吸器操作訓練」実施結果報告

③インシデント報告に対する協力について

④睡眠医療部における安全管理マニュアルの制定について

⑤「医療に係る安全管理のための指針」の改正について

⑥院内掲示物「採血時のお願い」について

1.2. 平成20年3月24日開催

①2月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討

②「平成19年度RM小委員会活動内容報告会」実施結果報告

③平成20年度医療安全推進者養成講座受講者の確認について

④平成20年度第1回医療安全対策講習会の実施について

⑤リスクマネジャー小委員会活動内容報告

⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	平成19年度 年 12回
-------------------------	-----------------

・研修の主な内容

○第1回 開催日：平成19年4月12日（木）午後5時から7時

形態：講習会

講師：テルモ株式会社 学術情報部 渡辺 愛弓 先生

演題：「医療事故防止への取り組み」

内容：「医療機関を取り巻く状況」、「リスクマネジメントに係る用語」、「原因思考の考え方で事故防止に向けての取り組み方法」について解説がなされた。

参加者：550名

○第2回 開催日：平成19年5月22日（火）午後5時から6時30分

形態：実技講習会

講師：リハビリテーション科 理学療法士

演題：「やさしさを行動に～車椅子操作訓練を通して～」

内容：講義と体験の組み合わせた講習会であり、知っているようで知らない車椅子の正式名称、各部品・部位の機能・基礎知識、簡単操作ができるよう意外と難しい操作方法など体験を通し車椅子の安全操作について学ぶ。

参加者：95名

○第3回 開催日：平成19年6月14日（木）午後5時から6時30分

形態：ビデオ講習会

講師：テルモ株式会社 学術情報部 渡辺 愛弓 先生

演題：「医療事故防止への取り組み」

内容：第1回のビデオ講習会を開催した。

参加者：219名

○第4回 開催日：平成19年7月3日（火）午後5時から7時

形態：講習会

講師：①放射線医学 学内教授 石川 勉 先生

②放射線医学 教授 楠 靖 先生

演 題：①「放射線部における造影剤副作用事例から学ぶべきこと」

②「MR I 検査室へ出入りする方へ：見えない危険性について」

内 容：放射線部における造影剤副作用事例から学んだこと並びにMR I 検査室の見えない危険性について、解説がなされた。

参加者：520名

○第5回 開催日：平成19年7月30日（月）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：心血管・肺内科 講師 瓢 義仁 先生

演 題：「神経調節性失神と起立性低血圧の診断と治療」

内 容：神経調節性失神と起立性低血圧について、解説がなされた。

参加者：91名

○第6回 開催日：平成19年10月18日（木）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：①医療安全対策課 安全管理者 渡辺いつ子

②医療安全対策課 参事 鈴木 利教

演 題：①「医療法改正に基づく周知事項」

②「暴力行為に対する対応」

内 容：医療法改正に基づく周知事項並びに暴力行為に対する対応方法について、解説がなされた。

参加者：740名

○第7回 開催日：平成19年11月9日（金）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：救急医学講座 学内講師 松島 久雄 先生

演 題：「院内AEDの使用状況並びに問題点」

内 容：院内AEDの使用状況並びに問題点について、解説がなされた。

参加者：473名

○第8回 開催日：平成19年11月20日（火）午後5時30分から7時

形 態：講習会

講 師：すずかけ法律事務所 弁護士 鈴木 利廣 先生

演 題：「患者側弁護士から見た医療事故対策」

内 容：患者側弁護士から見た医療事故対策について、解説がなされた。

参加者：234名

○第9回 開催日：平成19年12月14日（金）午後5時から6時30分

形 態：ビデオ講習会

講 師：①医療安全対策課 安全管理者 渡辺いつ子

②医療安全対策課 参事 鈴木 利教

演 題：①「医療法改正に基づく周知事項」

②「暴力行為に対する対応」

内 容：第6回のビデオ講習会を開催した。

参加者：66名

○第10回 開催日：平成20年1月18日（金）午後5時から6時30分

形 態：ビデオ講習会

講 師：すずかけ法律事務所 弁護士 鈴木 利廣 先生

演題：「患者側弁護士から見た医療事故対策」

内容：第8回のビデオ講習会を開催した

参加者：68名

○第11回 開催日：平成20年2月21日（木）午後5時から6時30分

形態：実技講習会

講師：医療機器安全管理者 崎尾 秀彰 先生並びに臨床工学部 臨床工学技士

演題：「人工呼吸器操作訓練」

内容：人工呼吸器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：77名

○第12回 開催日：平成20年3月13日（木）・14日（金）午後5時から7時

形態：研修・発表会

講師：リスクマネジャー小委員会委員

演題：「リスクマネジャー小委員会における活動内容報告会」

内容：各リスクマネジャー小委員会が年間活動内容及び検証結果について発表した。

参加者：273名

○オリエンテーション（対象：平成19年度新入看護師）

開催日：平成19年4月3日（火）午後2時から3時

形態：講習会

講師：医療安全対策課 安全管理者 渡辺 いつ子

演題：「当院の医療安全対策～医療安全のとらえ方」

内容：当院の医療安全体制について、解説がなされた。

参加者：90名

○オリエンテーション（対象：平成19年度臨床研修医）

開催日：平成19年4月12日（木）午前9時から午後4時30分

形態：実技講習会

講師：テルモ株式会社 社員

演題：「模擬腕を使用した静脈穿刺・採血（体験学習）」

「輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方（体験学習）」

内容：平成19年度臨床研修医が模擬腕を使用して静脈穿刺・採血、輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方を体験した。

参加者：37名

○ビデオ視聴会 開催日：平成20年3月24日（月）から29日（土）午前9時から5時

形態：医療安全対策課管理ビデオ視聴会

参加者：78名

○その他 開催日：①平成19年11月15日（木）午後5時から7時

②平成19年12月11日（火）午後5時から7時

③平成19年12月26日（水）午後5時から7時

④平成20年1月23日（水）午後5時から7時（録画上映）

形態：講習会

講師：インサイトラーニング株式会社 柿沼 良太 先生

演題：「接遇＆マナーの基本」（全教職員対象）

内容：接遇・マナーを通じ患者様に対するサービスの向上（信頼関係の構築）について、解説がなされた。

参加者：1、699名

⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備（有）・無）

・その他の改善の方策の主な内容：

1) 患者様へ中心静脈カテーテルを挿管する際、カテーテルの先端が後腹膜に達した事例について、崎尾委員より再発防止策として認定医制度（許可制）を導入して、中心静脈穿刺に熟練した医師のみがカテーテルを挿管できるような体制を整備すべきである旨の提案があった。

（平成19年6月委員会）

2) 患児に採血を施行する際、体動があつたため皮膚（踵）を傷つけた事例について、改善策として今後患児に採血を行う場合には、しっかり抑えて施行することを再徹底した。

（平成19年12月委員会）

3) 皮膚生検後に標本を作成する際、検体容器内に検体が入っていないかった事例について、改善策として今後生検を実施した場合には、標本瓶に検体が入っていることを医師が確認すること、また検体を受け渡す場合には担当看護師も検体が入っていることを確認することを徹底した。

（平成19年12月委員会）

4) 入院患者様に術前処置として剃毛を行った際、注意不足から右手に持っていた剃刃が患者様の左下肢膝窩上部に触れて切傷させてしまった事例について、改善策として今後危険物を取り扱う際は、危険物に対する意識と周囲への注意をしっかり持ち、安全に処置を行うことを徹底した。（平成20年1月委員会）

5) A型肝炎ワクチンを接種する患者様に確認不足から誤ってインフルエンザワクチンを接種した事例について、当該部署にて立案した再発防止策（①机の上には接種該当ワクチンの入ったトレイだけを置き、他ワクチンの入ったトレイは絶対置かない。②トレイの中に接種該当ワクチンの表示してある包装箱を必ず入れる。③接種該当ワクチンの指差し確認を行う。④接種された方に接種該当ワクチンの最終確認を行う。）を今後院内広報誌第62号（平成20年2月発行）に掲載し、病院全教職員に対して注意を促す予定である旨の報告があった。

（平成20年1月委員会）

6) 眼科外来において患者様に視力検査を行う際、確認不足から誤って同姓同名である別の患者様に検査を実施するというインシデント事例が発生した旨の説明があった。これを踏まえ情報処理室 磯山主任より、本件事例に係る再発防止策（システム改良を含む）について、下記のとおり報告があった。

【再発防止策】

- (1) 受付患者一覧を使用して画面の中でチェックする。
- (2) 受付患者一覧を使用して全患者をチェックする。
- (3) 患者照合システムを構築して照合する。
- (4) 確認方法を検討する。

なお、上記事項については、種々検討の結果、コスト面・運用面等を踏まえて検討していく必要性があることから、引き続き医療情報委員会において検討していただくことを依頼することとした。（平成19年5月委員会）

7) 臨床研修医が起こしたアクシデント事例（内容：指導医が不在であるにもかかわらず、研修医単独で胸腔ドレーンを抜去したが、適切な抜去方法でなかったため、その後指導医により再度胸腔ドレーンを挿入した事例）の再発防止策について、下記のとおり検討が行われた。

小鷹医師：コールではなくPHSを導入すれば、指導医が現場を離れるることは無くなる。

崎尾委員：本事例については、臨床研修医単独で医療行為を行ったことが問題である。

上記事項については、臨床研修医が指導医から直接指導を受けなければならない医療行為を施行する際には、必ず指導医の監督下に行うことを再徹底するよう臨床研修センターへ依頼することとなった。(平成19年11月委員会)

- 8) 野原委員長より、最近患者様が採血後に痺れや痛みを訴える事例が多発していることから、採血をより安全に施行するため、院内で統一したマニュアルを作成すべきではないかとの提案があった。本件について、配付資料「採血に係る各部門別マニュアル（看護部、臨床検査部）」に基づき、種々検討を重ねた結果、今後患者様に採血を施行する際には、危険性（神経が刺激されて手が痺れる可能性がある）を十分説明した上で、患者様に採血を施行するかどうか決定権を与えるべきである旨の提案があり、了承された。(平成20年1月委員会)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容： 【基本指針】<ul style="list-style-type: none">・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方・ 院内感染防止対策委員会・その他の組織に関する基本的事項・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針・ 感染事例報告などの医療にかかる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ 患者からの相談への対応に関する基本方針・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回

- ・ 活動の主な内容： 患者及び教職員への院内感染を防止し、またその対策を講じ、病院内の環境保全と安全衛生を確保するために、院内感染防止対策委員会を設置し、院内感染防止に関する諸施策及び感染症患者取扱いの基本的事項等について審議する。																																											
【委員会での内容】 - ・ 前回議事の確認 - ・ 病原体の検出報告 - ①MRSAと綠膿菌の検出状況 - ②血液培養陽性者リスト - ③監視培養のMRSA陽性率 - ④病棟別検出菌上位10菌種 - ⑤薬剤耐性菌(MDRP, ESBL・メロBL産生菌)検出患者 - ・ 抗MRSA薬使用状況 - ・ カルバペネム系薬使用状況 - ・ 第4世代セフェム系抗菌薬の使用状況 - ・ 病棟別抗菌薬使用状況 - ・ 感染症発生報告書提出件数 - ・ 事例から学ぶ感染対策とICT委員が知っていると便利な微生物学知識 - ・ その他（その月の審議事項及び事例報告等）																																											
【委員会開催日】				------	-------------		第 1回	平成19年 4月24日		第 2回	平成19年 5月29日		第 3回	平成19年 6月26日		第 4回	平成19年 7月31日		第 5回	平成19年 8月28日		第 6回	平成19年 9月25日		第 7回	平成19年10月30日		第 8回	平成19年11月27日		第 9回	平成19年12月18日		第10回	平成20年 1月22日		第11回	平成20年 2月26日		第12回	平成20年 3月25日		

<p>③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況</p>	<p>全教職員対象 年 6回 部署別講習 3回</p>
・ 研修の主な内容 :	
【全教職員対象講習会】	
<p>第1回 開催日及び参加人数 : 平成19年6月1日 418名 演題及び発表者 : 『手指衛生は、感染対策の第一歩』 微生物学教室 藤澤隆一 『間違いだらけの見た目重視の手指衛生』 看護部 香取三奈・真柄雄樹 『ICT看護師活動報告』 実験グループ、企画グループ、マニュアルグループ</p>	
<p>第2回 開催日及び参加人数 : 平成19年9月21日 738名 演題及び発表者 : 『SSIの基礎知識』臨床検査部 山本芳尚 薬剤部 蘇原由貴 看護部 香取三奈 『米国に見る臨床現場におけるSSI対策の実際と安全問題』 チューレン大学(米国)臨床外科教授 北浜 昭夫 先生</p>	
<p>第3回 開催日及び参加人数 : 平成19年11月5日 656名 演題及び発表者 : 『院内でのか-テル感染とマキシマルバ'リア'リコ-ション』 臨床検査部 大内友二 看護部ICT CVかケル-ブ 救急医学 小野一之 先生 救命救急センター 増田雄彦 先生</p>	
<p>第4回 開催日及び参加人数 : 平成19年12月6日 777名 演題及び発表者 : 『インフルエンザと咳エチケット』 呼・アルギ-内科 福島康次 先生 臨床検査部 及川信次 看護部 ICT 香取三奈、真柄雄樹</p>	
<p>第5回 開催日及び参加人数 : 平成20年2月15日 520名 演題及び発表者 : 『3病院の感染対策』 赤痢アメ-バ、腸チフスの体験から 日光医療センター 村上妃沙子 事務から見た感染対策 越谷病院 篠原君夫 神経内科における抗菌薬の使用について 神経内科 岩波正興 先生</p>	
<p>第6回 開催日及び参加人数 : 平成20年3月21日 301名 演題及び発表者 : 『平成19年度 ICT活動報告』 尿路かケル-ブ、ラウンドグループ、企画・広報グループ 実験グループ、薬剤部 蘇原由貴、萱沼保伯</p>	
【部署別講習会】	
<p>○第1回 委託職員対象 (東武ビ'ルマジ'メント、白栄社、東武レストラ)</p>	
開催日 : 平成19年7月23日、25日、26日、8月10日 参加人数 : 220名 内容 : グリッターバグによる手洗いの確認	
<p>○日光医療センター</p>	
開催日 : 平成19年8月1日 参加人数 : 80名 内容 : 各病棟をめぐり手洗い講習 (手指の培地をとる、グリッターバグによる手洗いの確認)	

○第2回 委託職員対象

(東武ビルマジメント、白栄社、東武レストラン)

開催日： 平成19年11月13日、15日、16日、20日、29日、12月20日

参加人数： 222名

内 容： 職業別感染対策について講演

発表者： 看護部ICT 泉澤清子、関口青子

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善の方策の主な内容：
医療安全管理部リスクマネージャー小委員会とICT委員で連携をとり、改善検討している。
 - ・ 病棟での1次洗浄から材料部での洗浄・消毒滅菌への一部移行
 - ・ 多剤耐性菌検出部署での独自マニュアルの作成
 - ・ 各部署での感染防止対策マニュアルの作成
 - ・ 日光医療センターで検出された菌や対策についてのコンサルテーションなど
 - ・ とちぎ地域ネットワーク事業で医療安全産業振興セミナーを開き、産学協同で施設内感染対策器具の改善・改良を行っている。

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○米国において起きたヘパリン製剤に不純物が混入したことによる副作用に関して、当院における適正使用の実施と対策について ○当院で新規に採用された薬剤の適正使用に関する研修 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/>・無) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救急部門・集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/>・無) ・ その他の改善の方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○抗菌薬使用に関する届け出制について、従来の抗MRSA薬、抗VRE薬にカルバペネム系抗菌薬を追加して安全使用のための改善をした。 ○誤投与防止のため、原則として病棟・外来の定数からカリウム製剤の注射薬をなくした。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 医療安全対策講習会(人工呼吸器) 1回 臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会(人工呼吸器の取り扱い方等について) 3回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 ((有)・無)保守点検の主な内容： 点検記録表に基づく点検。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)その他の改善の方策の主な内容： メーカーからの機器に対する安全情報を関連部署へ配布し、周知徹底を図る。	